

平成27年度 スポーツ庁委託事業
女性アスリートの育成・支援プロジェクト／女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究

実態に即した女性アスリート支援のための調査研究

報告書

目　次

1. 背景 ---- 1
2. 目的 ---- 1
3. 予備調査 ---- 1
   3.1. 調査概要 ---- 1
   3.2. 調査結果 ---- 1
4. アンケート調査概要 ---- 1
5. 女性アスリートの実態調査 ---- 2
   5.1. アンケート結果 ---- 2
      5.1.1. 属性別内訳 ---- 2
      5.1.2. 女性アスリートが必要と考えるサポート ---- 2
      5.1.3. 女性アスリートが抱える課題 ---- 3
      5.1.4. 女性アスリートのサポート利用状況 ---- 3
      5.1.5. 女性アスリートのサポート満足度 ---- 3
   5.2. アンケート結果の分析 ---- 3
      5.2.1. サポートの利用状況と満足度の関連 ---- 4
      5.2.2. 女性アスリートの身体面について ---- 4
      5.2.3. 女性アスリートの心理面について ---- 5
      5.2.4. 女性アスリートの金銭面について ---- 6
6. 指導者の実態調査 ---- 8
   6.1. アンケート結果 ---- 8
      6.1.1. 属性別内訳 ---- 8
      6.1.2. 指導者が必要と考えるサポート ---- 8
      6.1.3. 指導者のサポート利用状況 ---- 9
      6.1.4. 指導者のサポート満足度 ---- 9
   6.2. アンケート結果の分析 ---- 10
      6.2.1. サポートの利用状況と満足度の関連 ---- 10
      6.2.2. 指導者の金銭面について ---- 10
7. 資金制度の提案 ---- 11
   7.1. 資金制度の現状と問題点の把握 ---- 11
      7.1.1. 調査結果 ---- 11
   7.2. 資金制度の提案 ---- 11
      7.2.1. 調査結果 ---- 11
8. まとめ ---- 12

実態に即した女性アスリート支援のための調査研究
平成 27 年度　女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究

1.　背景

女性アスリートの近年の活躍、オリンピックでのメダル獲得数の伸びしろとしての期待から、女性アスリートサポートをより強化していく使命が高まっている。スポーツ基本計画（文部科学省、2012）では「競技力の向上は重要な課題となっているが、女性アスリートに対する効果的な支援の在り方については、いまだ研究・開発の途上にある」と記載されている。そこで 2013 年度から文部科学省委託事業として「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」が始まり、2014 年度からよりアスリートが望んでいるサポートや現場に即した研究を施行するために、新たに本調査研究が加わった（図 1 参照）。

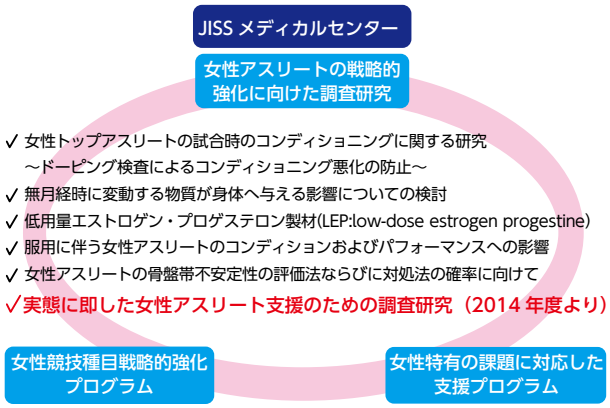


図 1：プロジェクトの全体像と JISS メディカルセンターが行っている調査研究の各項目

2.　目的

希望する支援の内容は人様々である。支援者が主観的に考える一方的な支援内容では、被支援者の精神的・物理的環境が必ずしも改善するとは限らない。本調査では、女性アスリート及び指導者の人数や年齢、配偶者・子供の有無、どのようなサポートを希望しているか等の実態調査を行う。現場の希望に即したサポートを効率的・効果的に行うための基礎資料を作成することを第一の目的とする（「5. 女性アスリートの実態調査」「6. 指導者の実態調査」）。

また、2012～2013 年度に国立スポーツ科学センター（以下「JISS」という。）が行ったライフサポート支援で、女性アスリートから「サポートの費用の使い方に柔軟性がない」と問題提起がなされた。そこで、我が国のアスリートにおける金銭面の現状と問題点を把握し、アスリートへの資金制度の情報提供を第二の目的とする。そのため、新たな資金制度の模索・検討について、専門家を交えた調査・研究を行い、サポートの改善を図る（「7. 資金制度の提案」）。

3.　予備調査

実態調査はアンケートで実施する。質問事項を決めるため、予備調査を行った。サポートに関する質問項目の収集、及び言葉の表現や言い回しといったワーディングの検討を目的に、女性アスリート及び指導者にアンケートとヒアリングを行った。

3.1.　調査概要

【対象】女性アスリート 5 名、強化スタッフ 4 名
【調査方法】質問紙によるアンケート調査、及びインタビュー形式によるヒアリング調査
【期間】2014 年 11 ～ 12 月

3.2.　調査結果

過去の調査報告や引退したアスリートや強化スタッフなどの意見を基に、女性アスリートが求めるサポートを 9 つのカテゴリに分け調査項目を作成した。



図 2：調査項目

図 2 のように、身体面のケア、心理面のケア、人的サポート資源の充実、的確な情報提供、競技（指導）環境の整備、金銭的な支援、キャリアプランの支援、競技スポーツに対する社会的評価の向上、家庭生活・育児との両立といった 9 カテゴリとなる。

また、サポートを提供するのは競技団体、企業、JISS、家族などを含め「全ての関係者からの支援」と定義した。

4.　アンケート調査概要

【対象】公益財団法人日本オリンピック委員会（以下「JOC」という。）強化指定選手、及び JOC 加盟競技団体（以下「NF」という。）の強化対象選手 856 名、JOC 強化スタッフ 598 名　　計 1454 名（表 1 参照）

表 1：JOC 加盟競技団体（52 団体 67 種目）

陸上競技	バドミントン	ソフトテニス
水泳（競泳）	ライフル射撃	軟式野球
水泳（飛込）	近代五種	相撲
水泳（水球）	ラグビーフットボール	ソフトボール
水泳（シンクロナイズドスイミング）	カヌー	弓道
サッカー	アーチェリー	剣道
テニス	クレー射撃	山岳
ボート	トライアスロン	空
ホッケー	ゴルフ	銃剣道
ボクシング	テコンドー	なぎなた
バレーボール（バレーボール）	スキー（アルペン）	ボウリング
バレーボール（ビーチバレー）	スキー（クロスカントリー）	野球
体操（体操）	スキー（ジャンプ）	武術太極拳
体操（新体操）	スキー（ノルディック複合）	スカッシュ
体操（トランポリン）	スキー（フリースタイル）	ビリヤード
バスケットボール	スキー（スノーボード）	ボディビル
レスリング	スケート（スピードスケート）	ダンススポーツ
セーリング	スケート（フィギュアスケート）	
ウエイトリフティング	スケート（ショートトラック）	
ハンドボール	アイスホッケー	
自転車	ボブスレー	
卓球	スケルトン	
馬術	リュージュ	
フェンシング	カーリング	
柔道	バイアスロン	

【調査方法】質問紙によるアンケート調査
【期間】2015 年 1 ～ 3 月
【手順】
①電話にて NF に依頼
②本調査内容に詳しい各 NF の担当者に調査内容の説明及び配布方法の相談
③アンケート配布、回収
④分析
⑤報告書作成
【返信方法】下記のいずれかの手段で回答を得た。
①返信用封筒等による郵送
②E メールによる返信
③合宿時訪問等によりアンケート回収
【分析】2015 年 3 月 31 日までに回収された女性アスリート 578 名、指導者 316 名分の単純集計、及びデータの分析を行った。
【アンケート回収率】
女性アスリート 68%、指導者 53%

5. 女性アスリートの実態調査

女性アスリートがどのような環境・状況で競技を行い、どのようなサポートを望んでいるのか等を把握することを目的として、質問紙によるアンケート調査を実施した。

5.1. アンケート結果

2015 年 3 月 31 日までに回収された女性アスリート 578 名（アンケート回収率は 68%）について、データ集計及び分析を行った。

5.1.1. 属性別内訳

○年齢：回答者 577 名の平均年齢は、23.25 ± 5.13 歳、最年少 14 歳、最年長 50 歳であった（図 3 参照）。

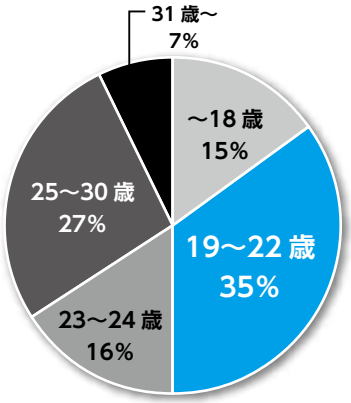


図 3：女性アスリートの年齢 (N=577)

○競技種目：回答者 569 名のうち、オリンピック競技が 495 名（87%）と大多数を占めた。夏季競技が 419 名（74%）、冬季競技が 76 名（13%）、非オリンピック競技は 74 名（13%）であった（図 4 参照）。

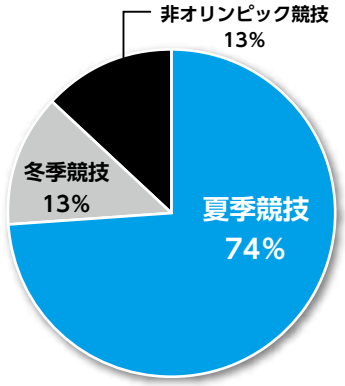


図 4：女性アスリートの競技種目 (N=569)

○配偶者・子供の有無：無回答を除く 575 名のうち既婚者が 23 名（4%）、未婚者が 552 名（96%）と大多数を占めた。また無回答を除く 566 名のうち、9 名（2%）の女性アスリートに子供がいる。
○選手区分：無回答を除く 529 名のうち、プロ選手が 84 名（16%）、アマチュア選手が 445 名（84%）であった。
○職業：無回答を除く 569 名のうち、学生・大学院生 235 名（41%）が最も多く、続いて正社員 193 名（34%）という結果であった。

5.1.2. 女性アスリートが必要と考えるサポート

女性アスリートが必要と考えるサポートを知るために、「必要と考えるサポートから順に上位 3 つを選ぶ」という質問を実施した。1 位を 3 点、2 位を 2 点、3 位を 1 点とし、項目ごとに合計点を算出した。

図 5 のように、「身体面のケア」の合計点が 788 点、「金銭面の支援」が 663 点と、女性アスリートが必要とするサポートの上位に挙がった。

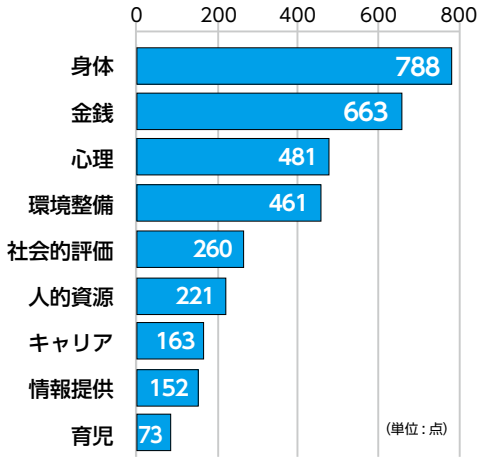
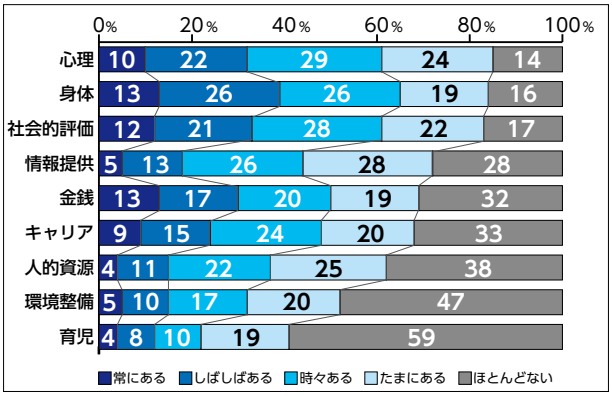


図 5:女性アスリートが必要とするサポート（N=544)
上位３つを順位づけ：１位３点、２位２点、
３位１点として合計を比較

5.1.3. 女性アスリートが抱える課題

９カテゴリについて、それぞれどの程度課題を抱えているかを質問した。心理面に注目すると、86%の女性アスリートが、程度の差はあるが何らかの心理的な問題を抱えていることが分かった（図６参照）。



※%は小数点以下を四捨五入

図 6：女性アスリートが抱える課題

5.1.4. 女性アスリートのサポート利用状況

女性アスリートがサポートをどの程度利用しているかについて質問したところ、249 名（47%）が「全く利用していない」と回答した（図７参照）。

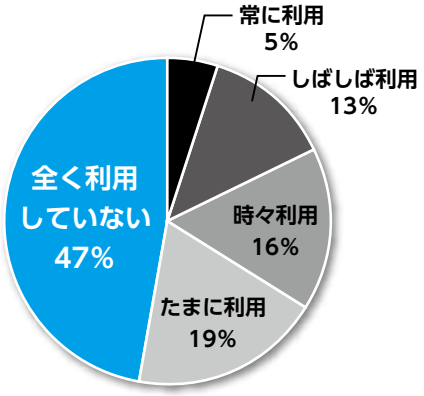


図 7：女性アスリートのサポート利用状況 (N=530)

5.1.5. 女性アスリートのサポート満足度

現行のサポート体制に対する満足度を調査した。「総じてどの程度満足しているか」という質問では「少し満足である」が 158 名（35%）と最も多く、「満足である」が 125 名（28%）と続いた（図８参照）。

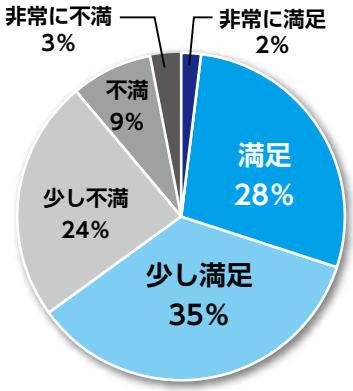


図 8：女性アスリートのサポート満足度 (N=453)

満足の理由として自由記述では、「婦人科の診療を受け、身体の悩みについて相談できた」「女性スタッフが１人いるだけで、気持ちが安定する」「競技に集中できる環境を提供してもらっている」ことが具体的に挙げられた。しかし「特に問題なく競技ができているので満足」という意見もあり、「サポート体制を理解できていない」と自由記述の中で記載したアスリートが 9%（19 名 / 215 名）いた。

不満の理由としては、「地方居住であると利用が難しい」「男性スタッフが多いため、女性ならではの悩みを打ち明けることができない」「結婚、出産後も競技を続けている人はどのように両立させているのかもっと情報がほしい」と答える一方、「サポートがない / 知らない」とサポート内容・周知・機会の不足に対する不満が数多く挙げられた。

5.2. アンケート結果の分析

アンケート結果をみると、女性アスリートが必要とするサポート内容が分かった。女性アスリートは「身体面のケア」と「金銭的支援」、「心理面のケア」が特に求められる。また約５割のアスリートがサポートを「ほとんど利用していない」ことが分かった。自由記述におけるサポート体制に対する不満の理由から、“多様性（多選択性）”とサポートの周知、サポートを利用する時間・機会の創出が必要と考えられる。以下アンケート結果の分析として、女性アスリートが特に求める支援に対し、支援度合等様々な観点で支援体制の改善ポイントを考察する。

5.2.1. サポートの利用状況と満足度の関連

自由記述においてサポート内容・周知・機会の不足に対する不満が多く挙げられ、その確認のためサポートの利用状況と満足度の関連を分析した。「常に利用している」「しばしば」「時々」「たまに」を「利用あり」群、「まったく利用していない」を「利用なし」群、また「非常に満足している」「満足」「少し満足」を「満足」群、「少し不満である」「不満」「非常に不満」を「不満」群としてクロス集計を行った。

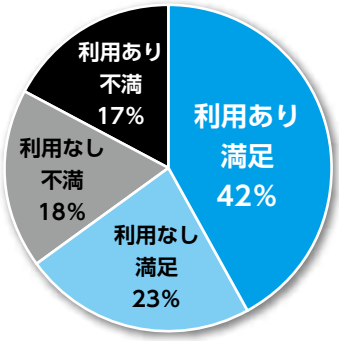


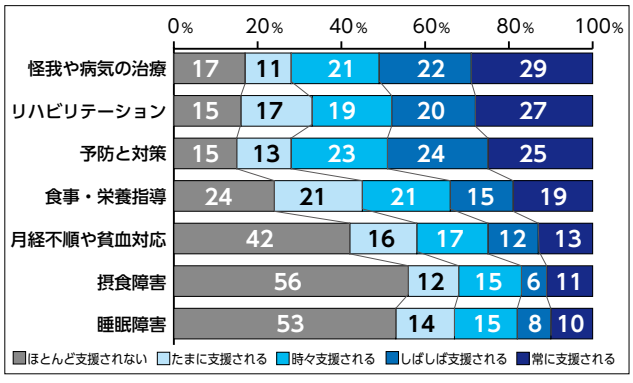
図 9：女性アスリートにおけるサポート利用と満足度の度合（N=443）

「サポート体制を利用せず、不満である」と答えた女性アスリートが2割存在した。これはサポート内容・周知・機会の不足に対し、アンケート対象者の2割が不満を持つと推測される（図9参照）。

5.2.2. 女性アスリートの身体面について

5.2.2.1. 支援度合

身体面のケアについて「怪我や病気の治療」「リハビリテーション」など7つの下位項目を設定した。「あなたが身体的な問題を抱えた場合、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか」と質問した。



※%は小数点以下を四捨五入

図 10：女性アスリートにおける身体面の支援度合

図10に表したように、月経不順や貧血の対処については42%が「ほとんど支援されない」と答えた。自由記述にも不満を訴える声があり、支援の必要がある。また、睡眠障害は53%、摂食障害は56%が「ほとんど支援されない」と過半数を占めた。

5.2.2.2. 夏季 / 冬季 / 非五輪競技別

身体面のケアにおける7つの下位項目について、「常に支援」を5点、「しばしば支援」を4点、「ときどき支援」を3点、「たまに支援」を2点、「ほとんど支援されない」を1点として7項目の支援度合を合計し、「身体支援得点」と定義した。

表2は夏季競技、冬季競技、非オリンピック競技別にみた身体支援得点の平均と標準偏差である。

また図11に示したように、条件①と条件②($p<.01$)、条件①と条件③($p<.01$)の間に有意差がみられた。オリンピック冬季競技や非オリンピック競技の方が夏季競技より、身体面でのケアについて支援されないと思っていることが示唆された。

表 2：競技別にみた身体支援得点の平均と標準偏差

	平均（M）	標準偏差（SD）
① 夏季 (N=400)	20. 5	7. 75
② 冬季 (N=72)	16. 1	7. 17
③ 非五輪 (N=69)	14. 7	7. 53

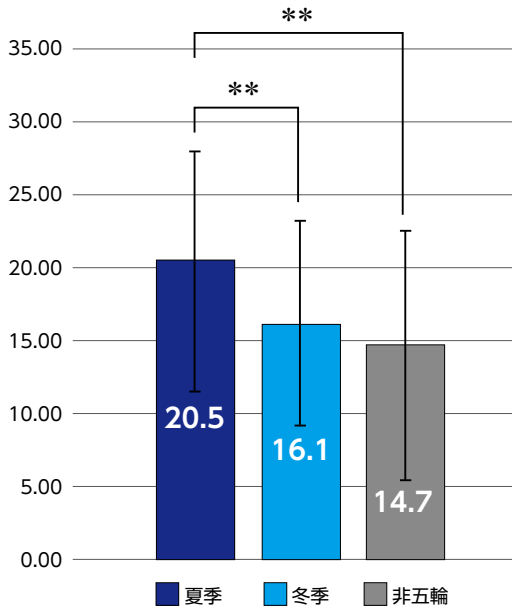


図 11：競技別にみた身体支援得点の比較

5.2.2.3.　女性競技者登録数の規模別

女性の競技者登録数（2014 年度）が 10 万人以上を「大規模」群と定義した。陸上競技、水泳、バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントン、ソフトテニス、剣道の 8 競技団体となる。「大規模」以外を「中小規模」群と定義した。

表 3 は女性競技者別にみた身体支援得点の平均と標準偏差である。t 検定を行った結果、図 12 に示したように、条件①と条件②の間に有意差があった（p<.01）。女性競技者の登録数が 10 万人以下の NF の方が大規模な NF より、身体面でのケアについて支援されないと思っていることが示唆された。

表 3：規模別にみた身体支援得点の平均と標準偏差

	平均（M）	標準偏差（SD）
① 大規模 (N=185)	20. 6	8. 08
② 中小規模 (N=356)	18. 4	7. 81

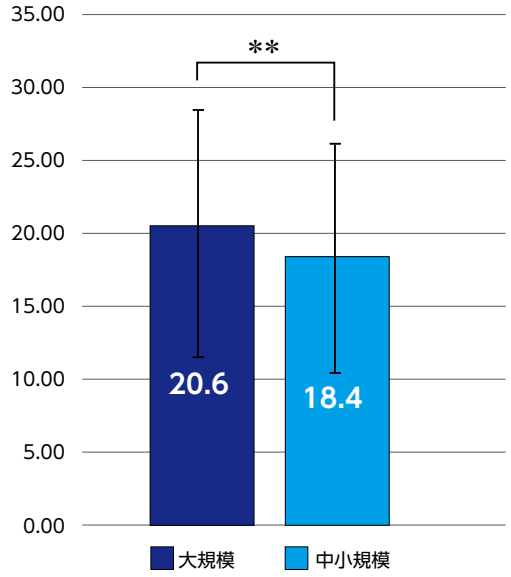


図 12：規模別にみた身体支援得点の比較

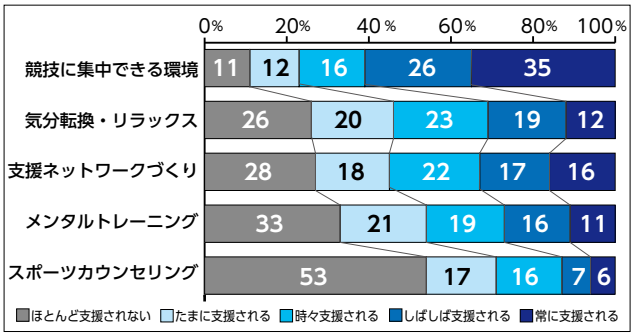
5.2.2.4.　身体面に関する自由記述

身体面のケアに関する女性アスリートの自由記述から「体重、体脂肪増加、月経前症候群に対しての対処の方法や情報がもう少しほしい」（20 代、記録系）、「現在の活動拠点の近くにアスリートを対象にできる婦人科がないに等しい」（20 代、持久系）、「合宿中の栄養管理。トレーニングに見合った栄養がとれているのか不安」（20 代、球技系）という声が挙がった。

5.2.3.　女性アスリートの心理面について

5.2.3.1.　支援度合

心理面のケアについて「メンタルトレーニング」「スポーツカウンセリング」など 5 つの下位項目を設定した。「あなたが心理的な問題を抱えた場合、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか」を質問し、その支援度合を図 13 に表した。



※％は小数点以下を四捨五入

図 13：女性アスリートにおける心理面の支援度合

スポーツカウンセリングは 53%、メンタルトレーニングは 33%が「ほとんど支援されない」と回答した。ともに自由記述においても不満を訴える声があり、支援の必要があると考察できる。

5.2.3.2.　夏季 / 冬季 / 非五輪競技別

身体面同様、心理面においても「心理支援得点」を計算し、夏季競技、冬季競技、非オリンピック競技別に比較を行った。表 4 は夏季競技、冬季競技、非オリンピック競技別にみた心理支援得点の平均と標準偏差である。t 検定を行った結果、図 14 に示したように、条件①と条件②（p<.01）、条件①と条件③（p<.01）の間に有意差がみられた。オリンピック冬季競技や非オリンピック競技の方が夏季競技より心理面でのケアについて支援されないと思っていることが示唆された。

表 4：競技別にみた心理支援得点の平均と標準偏差

	平均（M）	標準偏差（SD）
① 夏季 (N=405)	14. 1	5. 09
② 冬季 (N=74)	12. 1	5. 05
③ 非五輪 (N=74)	11. 9	5. 04

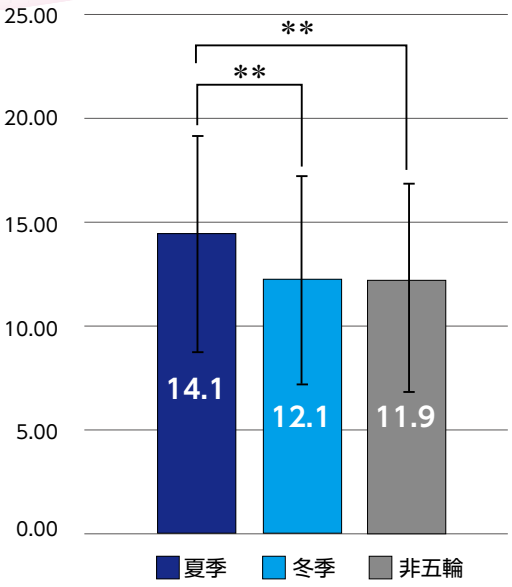


図 14： 競技別にみた心理支援得点の比較

5.2.3.3. 女性競技者登録数の規模別

登録数別に心理支援得点を比較するためにt検定を行った結果、条件①と条件②の間に有意差があった（p<.05）。女性競技者の登録数が10万人以下のNFの方がより心理面でのケアについて支援されないと思っていることが示唆された。

表 5：規模別にみた心理支援得点の平均と標準偏差

	平均（M）	標準偏差（SD）
① 大規模（N=188）	14. 3	5. 14
② 中小規模（N=365）	13. 2	5. 14

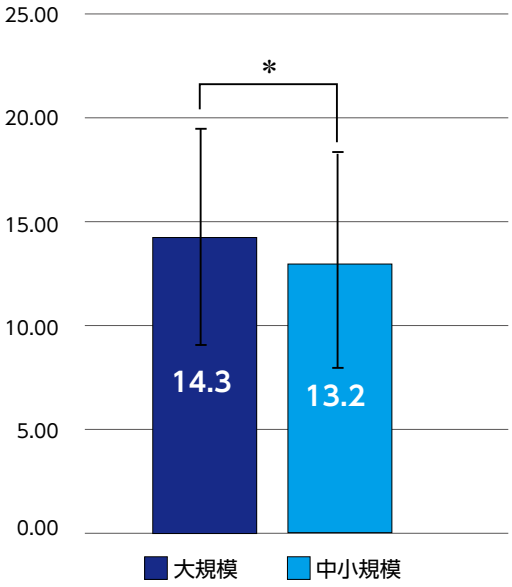


図 15：規模別にみた心理支援得点の比較

5.2.3.4. 心理面に関する自由記述

「精神面のサポートは、ほとんどありません。競技に関しては、コーチと両親だけがたよりで、常に不安定な状況です」（10代、氷上系）、「心理的なサポート、精神的なサポートをして欲しい。私のまわりにもたくさん悩みをかかえている選手ばかりである」（20代、採点系）、「メンタルトレーニングの必要性」（40代、標的系）という声が挙げられた。

5.2.4. 女性アスリートの金銭面について

5.2.4.1. 年収

図16に示したように、収入なしが164名（32%）で最も多く、200万～300万円未満が84名（16%）と続き、0～400万円未満で79%と8割近くを占めた。

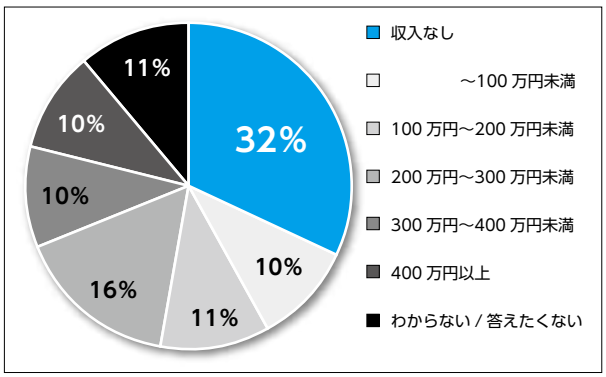


図 16：女性アスリートの年収（N=518）

5.2.4.2. 競技に要する費用

50万～100万円未満が66名（26%）と最も多く、次いで100万円以上が63名（25%）と続き、半数を占めた。

5.2.4.3. 金銭的問題の有無

表6に示した通り「あなたは金銭面で問題があると思うことがありますか」という質問では、「ほとんどない」が176名（32%）と最も多く、次いで「時々ある」が109名（20%）、更に「たまにある」が107名（19%）と続いた。

表 6：女性アスリートの金銭的問題の有無（N=554）

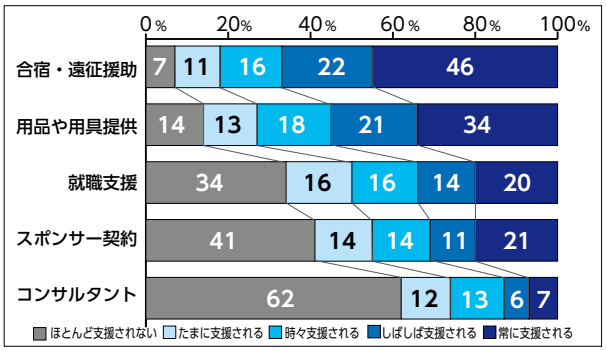
ほとんどない	たまにある	時々ある	しばしばある	常にある
176名 32%	107名 19%	109名 20%	92名 17%	70名 13%

※%は小数点以下を四捨五入

5.2.4.4.　支援度合

「あなたが金銭面での問題を抱えた場合、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか」と質問し、その支援度合を図17に表した。

合宿・遠征費への資金援助では「常に支援される」が46%、就職支援は34%、スポンサー契約は41%が「ほとんど支援されない」と回答した。自由記述にも不満を訴える声があり、支援の必要がある。コンサルタントを行う支援団体の紹介は62%が「ほとんど支援されない」と過半数を超えた。



※%は小数点以下を四捨五入

図 17：女性アスリートにおける金銭的支援

5.2.4.5.　夏季 / 冬季 / 非五輪競技別

金銭支援得点について競技別に比較を行った結果、条件①と条件②（p<.01）、条件①と条件③（p<.05）の間に有意差がみられた。オリンピック冬季競技や非オリンピック競技の方が、夏季競技より金銭面について支援されないと思っていることが示唆された（表7、図18参照）。

表 7：競技別にみた金銭支援得点の平均と標準偏差

	平均（M）	標準偏差（SD）
①　夏季 (N=397)	15. 1	5. 33
②　冬季 (N=72)	12. 1	5. 11
③　非五輪 (N=68)	13. 3	5. 92

5.2.4.6.　女性競技者登録数の規模別

金銭支援得点について規模別に比較を行った結果、条件①と条件 ②の間に有意差があった（p<.01）。女性競技者の登録数が10万人以下のNFの方が、より金銭面について支援されないと思っていることが示唆された（表8、図19参照）。

表 8：規模別にみた金銭支援得点の平均と標準偏差

	平均（M）	標準偏差（SD）
① 大規模 (N=182)	16. 2	5. 75
② 中小規模 (N=355)	13. 6	5. 14

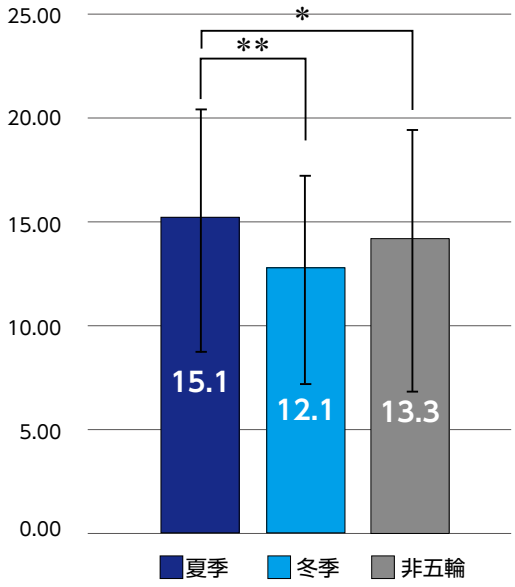


図 18：競技別にみた金銭支援得点の比較

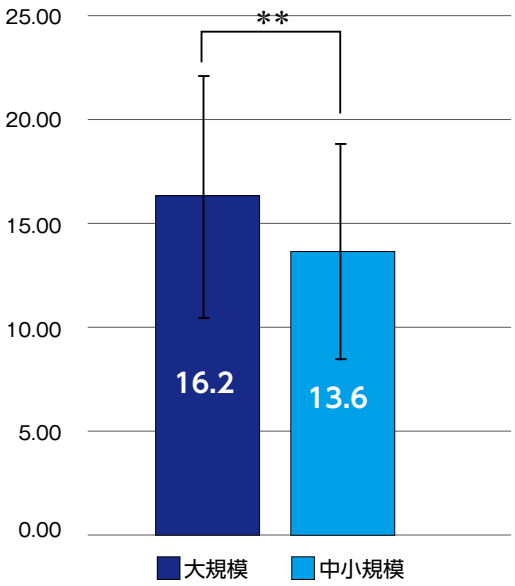


図 19：規模別にみた金銭支援得点の比較

5.2.4.7.　金銭面に関する自由記述

金銭的な支援に関する女性アスリートの自由記述から「協賛がつかない」（30代、球技系）、「大学卒業後、競技を続けたいと考えているが、受け入れてくれるところがあるか探したい」（20代、技術系）、「海外遠征をしてポイントを獲得していくことがオリンピックまでの絶対条件だが、遠征費が足りない現実もある」（20代、持久系）と記述されていた。

6.　指導者の実態調査

指導者にも女性アスリート同様に、質問紙によるアンケート調査を実施した。

6.1.　アンケート結果

2015年3月31日までに回収された指導者316名（アンケート回収率は53%）についてデータ集計及び分析を行った。

6.1.1.　属性別内訳

○性別：無回答を除き314名のうち、男性が168名（54%）、女性が146名（46%）となった（図20参照）。

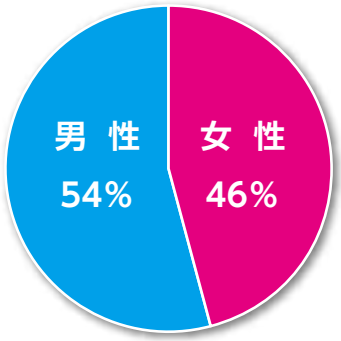


図 20：指導者の性別 (N=314)

○年齢：無回答を除き312名のうち、40代が最も多く109名（35%）、次いで30代が83名（27%）、50代が64名（21%）という結果であった（図21参照）。

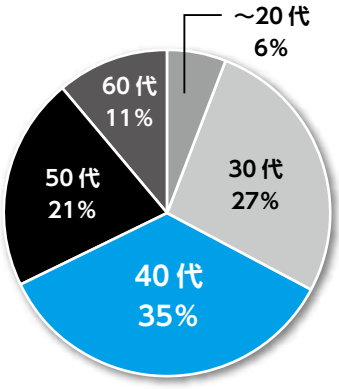


図 21：指導者の年齢（N=312）

○配偶者・子供の有無：無回答を除き314名のうち、既婚者が217名（69%）、未婚者が97名（31%）となった。また無回答を除く313名のうち、176名（56%）の指導者に子どもがいる。2人の子どもを持つ指導者が82名（48%）と最も多かった。

○役割：無回答を除き311名のうち、コーチングスタッフが232名、続いてマネジメントスタッフが45名、医科学スタッフが43名であった（図22参照）。複数の指導者が、多岐に渡ってスタッフを兼務していた。

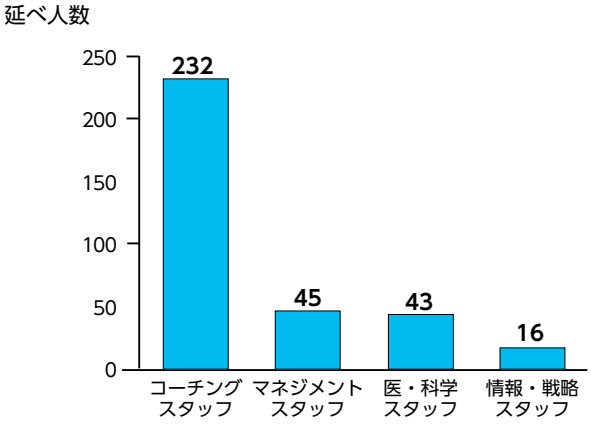


図 22：指導者の役割（N=311）

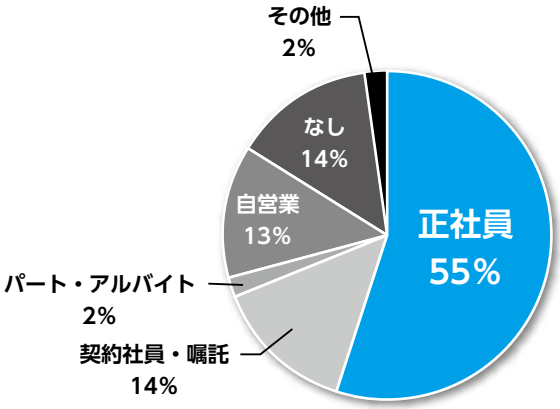


図 23：指導者の職業（N=309）

○職業：無回答を除き309名のうち、正社員が170名（55%）と過半数を占めた（図23参照）。

6.1.2.　指導者が必要と考えるサポート

女性アスリートと同様の質問を行い、指導者が必要と考えるサポートを調査した。「あなたが必要と考えるサポートから順に上位3つを選ぶ」という質問から1位に挙げられた項目を3点、2位を2点、3位を1点とし、合計点を算出した。

図24に示した通り、「金銭面の支援」の合計点が476点となり、指導者が必要とするサポートの第1位に挙がった。

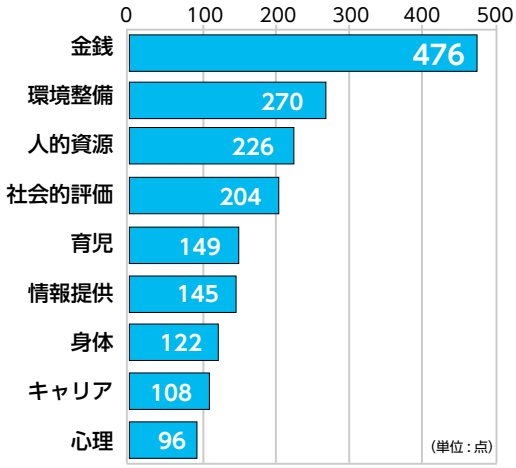


図 24：指導者が必要とするサポート (N=301)
上位 3 つを順位づけ：1 位 3 点、2 位 2 点、
3 位 1 点として合計を比較

また、図 25 の通り、男女別にみた必要と考えるサポートの比較では、男性指導者に比べ女性指導者は育児との両立への支援が必要と思っている度合が高い。

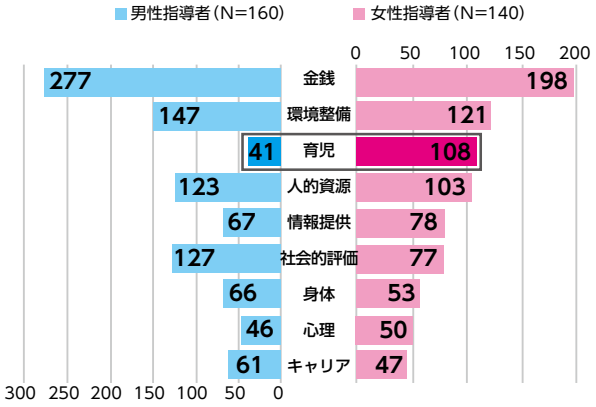


図 25：男女指導者別にみた必要とするサポート (N=300)

6.1.3. 指導者のサポート利用状況

「指導者へのサポート体制をどの程度利用しているか」という質問に対しては、228 名 (78%) が「全く利用していない」と回答した。約 8 割の指導者がサポート体制を利用していないことが分かった(図 26 参照)。

6.1.4. 指導者のサポート満足度

現行のサポート体制に対する満足度を調査した。「指導者へのサポート体制に対して、総じてどの程度満足しているか」という質問では、「少し不満である」が 67 名 (29%) と最も多く、次いで「不満である」が 60 名 (26%) であった (図 27 参照)。

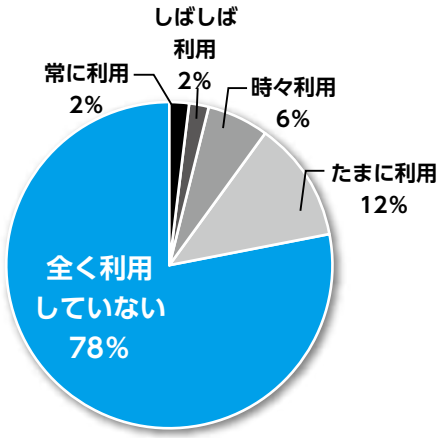


図 26：指導者のサポート利用状況 (N=291)

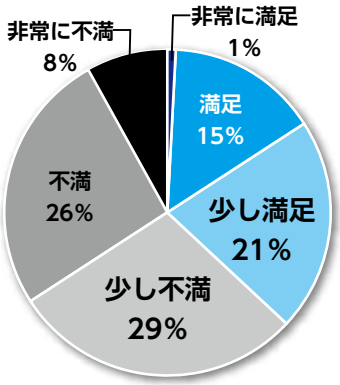


図 27：指導者のサポート満足度 (N=234)

自由記述では、満足の理由として「合宿や遠征では、ほとんどサポート体制が整備されている」「情報提供の機会が多いので、選択が出来る」「他のスタッフとのコミュニケーションも良く、満足している」が多く挙げられた。しかし「特に問題なく指導ができているので満足」と、サポート体制の情報がなくわからない」と挙げた指導者が 8% (6 名 / 77 名) いたことも分かった。

不満の理由としては「ビデオ撮り、コンピュータ解析など、充実した施設をもっと使用させて欲しい」「正規の仕事の合間に参加するため、常にスタッフが不足している」と環境面や人的サポート資源の充実を求める声が挙げられた。しかし「サポートがない」「サポートがあることを知らない」「利用する時間・機会がない」とサポート内容・周知・時間機会の不足に対する不満も多く挙げられていた。

6.2.　アンケート結果の分析

アンケート結果をみると、指導者が必要とするサポートでは「金銭的支援」が特に求められる。また約 8 割の指導者がサポートを「ほとんど利用していない」ことが分かった。女性アスリートと同様に、自由記述に書かれた不満の理由から、サポート体制の“多様性（多選択性）”とサポートの周知、サポートを利用する時間・機会の創出が必要と考えられる。以下、指導者が特に求める金銭面の支援に対し、支援度合等様々な観点で支援体制の改善ポイントを考察する。

6.2.1. サポートの利用状況と満足度の関連

女性アスリートと同様に、自由記述においてサポート内容・周知・機会の不足に対する不満が多く挙げられた。サポート体制の利用状況と満足度の関連を確認するため、クロス集計を行った（図 28 参照）。

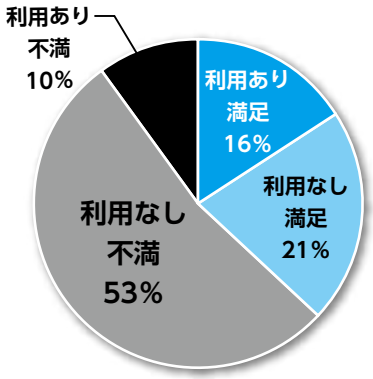


図 28：指導者におけるサポート利用と満足度の度合（N=229）

「利用なし・不満」が 5 割存在した。サポート内容・周知・機会の不足に対して、アンケート対象者の 5 割が不満を持つと推測され、指導者の方が女性アスリートより高い値を示している。

6.2.2. 指導者の金銭面について

6.2.2.1.　年収

無回答を除く 269 名のうち、400 万～ 600 万円未満が 56 名（21%）と一番多く、続いて 600 万～ 800 万円未満が 49 名（18%）、更に 200 万～ 400 万円未満が 49 名（18%）という結果となった。また 1000 万円以上は 22 名（8%）であった（図 29 参照）。

6.2.2.2.　指導に関わる費用

100 万～ 200 万円未満が 46 名（30%）と最も多かった。

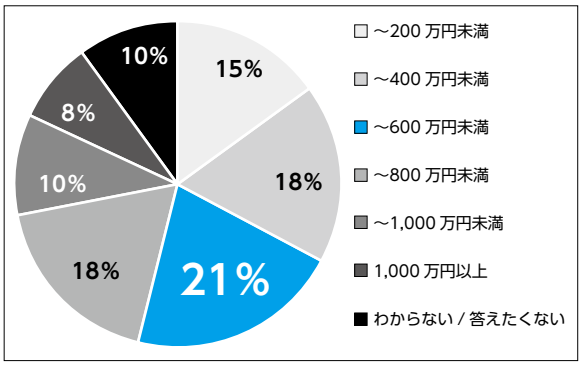


図 29：指導者の年収 (N=269)

6.2.2.3.　金銭的問題の有無

表 9 に示した通り「あなたは金銭面で問題があると思うことがありますか」という質問では、「常にある」が 74 名（24%）と最も多く、次いで「時々ある」が 65 名（21%）と続いた（表 9 参照）。

表 9：指導者の金銭的問題の有無（N=305）

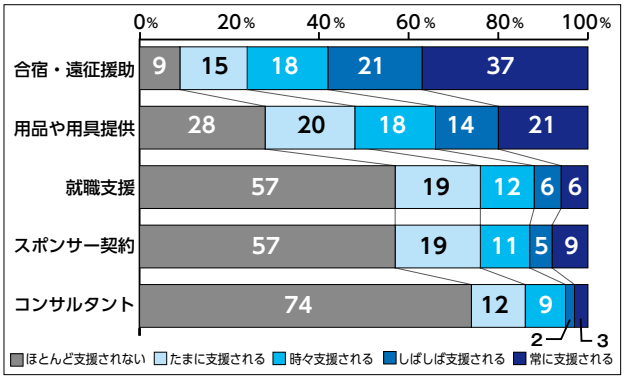
ほとんどない	たまにある	時々ある	しばしばある	常にある
53 名 17%	61 名 20%	65 名 21%	52 名 17%	74 名 24%

※%は小数点以下を四捨五入

6.2.2.4.　支援度合

「あなたが金銭面での問題を抱えた場合、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか」と支援度合について質問した（図 30 参照）。

合宿・遠征費への資金援助では「常に支援される」が 112 名（37%）と多かった。就職支援、雇用の促進は 174 名（57%）、企業とのスポンサー契約は 172 名（57%）、コンサルタントを行う支援団体の紹介は 221 名（74%）と「ほとんど支援されない」という結果が多かった。



※%は小数点以下を四捨五入

図 30：指導者における金銭的な支援

6.2.2.5.　金銭面に関する自由記述

金銭面での支援に関する指導者の自由記述から「スポンサーによる資金調達とスタッフの雇用等によるサポート体制の充実が必要」(60 代以上、技術系)、「海外への視察等、スキルアップに必要な費用を支援して頂きたい」(30 代、球技系)、「遠征費などは連盟から支出されているので不安はないが、規定が厳しくしかたなく自己負担としてしまう面がある」(50 代、記録系) という声が挙がっていた

7.　資金制度の提案

7.1.　資金制度の現状と問題点の把握

民間団体がスポーツ選手に対して提供している奨学金や助成金、保険、積立金等の資金制度の現状を調査した。
【調査方法】文献・インターネット調査後、各民間団体への聞き取り調査
【調査期間】2015 年 4 月～ 8 月
【調査項目】資金制度の概要、実施・利用状況、問題点等

7.1.1.　調査結果

○奨学金：進学に必要な学費や生活費を支援する制度であり、卒業後に返還する貸与型と、返還の必要がない給付型がある。授業料などの学費免除、国際大会に出場する選手が海外遠征費などに奨学金を充てている場合がある。

経済的理由により修学が困難であると認められた場合や、国内外の大会において特に優秀な成績を収め将来が期待できる選手に対して奨学金制度を設けている。各大学や企業、民間団体などにて独自で設けている奨学金がある。また都道府県や市区町村など多くの地方公共団体で奨学金制度を実施している。

申込方法や給付・貸与等、制度ごとに異なった手続きが必要となる。採用人数が決まっているため、対象者が限定される。推薦が必要であったり、受給資格や選考基準 (競技成績、表彰実績、人物、学業など) が設定されていたりする。返済義務や利子負担があり、低収入、非正規雇用による生計の維持、失業、疾病などの理由で返済ができない延滞の問題が発生している。

○助成金：笹川スポーツ財団が助成金制度やスポーツに関連する助成事業についてホームページで紹介している。

また独立行政法人日本スポーツ振興センター (以下「JSC」という。) では、スポーツ振興基金を設置し、優秀な選手に対してアスリート助成を行っている。手続き上で申請や審査があり、選ばれたアスリートに対して助成される。

○保険：NF に選手登録をされるとスポーツ傷害保険に入るケースが多い。生命保険、損害保険等への加入は各自に任されている。

○積立：毎月一定額を着実に積み立てる制度であり、施設への環境整備や強化費などのために行っている NF も多い。

○学資ローン：一般のローンより金利が低いのが特徴である。国の機関や銀行などの金融機関が運営している。進学する人の保護者などに融資される。受験費用、入学金、授業料といった学校に納める費用と、アパート代や通学費といった生活費として利用される。

7.2.　資金制度の提案

女性アスリートと必要な資金制度のマッチングを行い、新たな資金制度を模索・提案する。また新たな資金制度における問題点、その分野に精通した専門家に関連情報について聞き取りを行い、実現可能性について検討した。
【調査期間】2015 年 9 月～ 2016 年 2 月

7.2.1.　調査結果

7.2.1.1.　専門家からの関連情報

問題点や関連情報について、特に法律的な問題も解決するために、その分野に精通した金融機関等に聞き取りを行い、実現可能性について検討した。

○寄附金：例えば、基金の規模が 100 億円以上で、別途手数料として 1 年に 500 万～1000 万円程度を金融機関に支払うなどが実現可能であれば、寄付金制度の確立が提案できる (図 31 参照)。

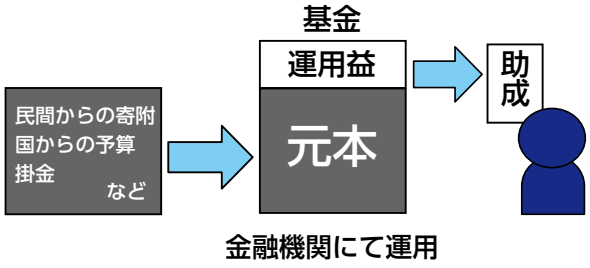


図 31：寄附金制度のしくみ

女性アスリートを対象としたライフプランセミナーの開催で、競技継続を見据えた生涯生活設計について個別に相談できる。

資金調達としてクラウドファンディングも活用できる。支援金の使途を設定する・しない、プロジェクトの目標額を達成すると寄附金が支払われる・達成しないと支払われない、サポーターへ御礼提供をする・しないなどによって、寄附型、購入型、寄附・購入併用型などに分かれている。起案者個人が自分に合った形で、インターネット利用者から出資を募る仕組みとなっている。

○積立：女性アスリートに特化して、将来の費用負担に備えた預金の積立制度を考えた。しかし、監督省庁からの指導等の要因により、規定条件を超える利率を提示することができないことが分かった。期間限定のキャンペーン商品として、例えば500万円以上の一定額を5万人集めて、3か月限定で運用する商品の構築も考えられた。しかしながら現段階での実現可能性としては低く、金融機関にある既存の商品で対応することが現実的である。

○保険：一般の人に比べてスポーツで怪我をするリスクが高いため、女性アスリートを対象とした積立・傷害保険制度については新規設計することはできない。保険も既存の商品で対応することになる。

7.2.1.2. ヒアリング調査

○実際にクラウドファンディングを活用しているNFへヒアリング調査を行った。寄附金を集めるためには、サポーターの獲得やファン層の拡大が重要であり、そのために画策している状況である。例えば、オリジナルグッズの作成及び販売、選手によるファン感謝祭の実施、SNSによる情報発信（Facebook、ファンサイト開設等）、外部組織との連携（大会中の外部協力者によるアトラクション、オフィシャル応援ソング及びミュージックビデオ作成等）に取組まれていた。クラウドファンディングを行っているが、資金調達というより競技種目の認知度を上げる施策の一つとして実施されていた。

○JSCにおいても、寄附を募集している。スポーツ振興基金への寄附、JISSが実施する研究事業への寄附、その他使途を特定して寄附、その他使途を特定しないで寄附などの事業が挙げられている。使途を特定して寄附という事業に、子供たちのけが防止、スポーツ文化普及のためにと記載されており、その一環として「女性アスリートのために」と使途を特定すれば寄附を募ることも実現可能となる。

○現役時代もトップで活躍した指導者に対して、金銭面に関するヒアリング調査を行った。選手時代、非正規職員であった仲間が金銭的に厳しい生活をしており、家族からのサポートを受け競技生活を維持していた。キャリア形成として、JOCアスナビを活用している選手もいた。練習拠点への交通費、用具運搬費などに苦慮したことが話された。オリンピック出場が決まると、企業からのスポンサー契約も増え、NFからの強化費など財政面が豊かになった。指導者としては、本業との兼ね合いが最も課題である。海外で最先端の指導を学んでくる選手に向けて、自分自身も指導力を上げるために研鑽していく必要性を感じていることが語られた。

8. まとめ

今回のアンケート結果より女性アスリートでは身体面のケア、金銭的な支援、心理面のケアの必要性が高いことがわかった。

以下の4点について、女性アスリートのサポート体制に関する改善ポイントが示唆された。

①月経不順や貧血対処、摂食障害、睡眠障害に対し、支援されていないと思っている度合が高いことが分かった。②スポーツカウンセリング、メンタルトレーニングに対し、支援されていないと思っていることが分かった。③就職支援、スポンサー契約、コンサルティング団体の紹介について、支援されていないと思っていることが分かった。④身体面、心理面、金銭面の全てにおいて、夏季競技より冬季競技／非オリンピック競技の方が、また女性競技登録人数が10万人以下のNFの方が大規模なNFよりも支援されておらず、支援体制への改善ポイントとなる。

指導者が必要とするサポートとして、特に「金銭的な支援」が求められた。また約8割の指導者がサポートを「ほとんど利用していない」ことが分かった。サポート体制の“多様性（多選択性）”とサポートの周知、サポートを利用する時間・機会の創出が必要と考えられる。

アンケート調査より女性アスリート、指導者ともに共通して金銭的支援への必要性の高さから、資金制度を模索検討し、調査研究をすすめた。女性アスリートでは年収なしが164名（32%）と一番多く、400万円未満が8割近くを占めた。資金調達で対応可能なのはクラウドファンディングの活用、また競技生活を継続しながら人生における様々なライフイベントも考えるライフプランセミナーの開催が現実的であることが分かった。サポーターの獲得、及び競技種目の認知度を上げることが重要であり、選手の価値を高めることになる。

女性アスリート及び指導者への支援体制に関して改善・検討を継続するために、各自もしくは各組織に対し、今後の課題を以下のように提案する。

＜女性アスリート及び指導者＞　主体的に支援制度に関する情報収集を心がける。

＜競技団体＞　アンケート分析結果の裏付けとした選手や指導者へのヒアリング、選手や指導者へのサポートに対する情報提供、民間団体と連携した資金調達及び運用の工夫（例えばクラウドファンディング活用やライフプランセミナー開催）などを行う。

＜都道府県体協＞　NF と協力し、中央研修の情報や知識を地方に発信させることに努める。

＜スポーツ庁＞　政策立案及び制度拡充により NF の支援を行う。

＜JSC（JISS）＞　スポーツ医科学・情報など先端的な研究から女性アスリート及び指導者を支援する。得られた知見を現場にフィードバックすることにより、女性アスリートの国際競技力向上に貢献する。

＜JOC＞　国際競技力向上における選手強化の観点で情報提供などを行う。

○競技・実践現場への活用・還元方法

学会、ワークショップ、事業報告会等で研究成果を発信し、各 NF 等での支援体制の構築に活用されるよう周知を図った。アンケート結果及び資金制度の提案を纏め、NF や都道府県体育協会、JOC、JISS などサポートを行う全ての関係者が、実際に活用できるよう報告書を作成した。年度末に報告書を関係諸機関に郵送する。更に JISS ホームページへの掲載、論文投稿等を通して情報を公開することにより、得られた知見を周知し広く一般社会に公表することに努める。

【参考文献】

1) 土肥美智子ほか．女性スポーツを現場から多角的に捉える．臨床スポーツ医学 Vol.32 No.6．2015.
2) 松本秀男ほか．女性アスリートの医科学的サポートを考える．臨床スポーツ医学 Vol.30 No.2．2013.
3) 文部科学省．スポーツ基本計画．2012
4) 独立行政法人日本スポーツ振興センター．女性アスリートのためのライフサポートワークショップ－出産のタイミング－活動報告書．2013.
5) 国立スポーツ科学センター．平成 25 年度女性アスリートの育成・支援プロジェクト女性特有の課題に対応した支援プログラム業務実績報告書．2014.
6) 国立スポーツ科学センター．成長期女性アスリート指導者のためのハンドブック．2014.
7) 文部科学省．スポーツ指導者の資質能力向上のための有識者会議（タスクフォース）報告書　私たちは未来から「スポーツ」を託されている－新しい時代にふさわしコーチング－．2013.
8) 日本スポーツ振興センター．アスリートのキャリア支援方策の在り方に関する調査･情報収集業務に関する報告．2013.
9) 日本トップリーグ連携機構．平成 21 年度スポーツ環境の整備に関する調査研究事業－文部科学省委託事業－トップチーム・トップアスリートに関する実態調査報告書．2010.
10) チーム「ニッポン」マルチサポート事業　研究開発プロジェクト女性アスリートの支援と育成に関する研究開発活動報告．筑波大学スポーツ R&D コア主催シンポジウム報告書「日本はなぜ女子スポーツ大国になったか？」．2012.
11) 中込四郎・鈴木壮編著．スポーツカウンセリングの現場から－アスリートがカウンセリングを受けるとき．道和書院．2015.
12) 順天堂大学女性アスリートの戦略的サポート事業．女性アスリート戦略的強化支援方策レポート．2013.
13) ヤマハ発動機スポーツ振興財団．「我が国のパラリンピアンを取りまくスポーツ環境調査」の報告について．2014.
14) 独立行政法人日本学生機構．平成 25 年度奨学金事業に関する実態調査結果．2014.
15) 笹川スポーツ財団ウェブマガジン sfen．特集スポーツ活動に対する助成金制度を知ろう！．2014. http://www.ssf.or.jp/archive/sfen/subsidy/subsidy1.html
16) 独立行政法人日本スポーツ振興センター．アスリート助成．http://www.jpnsport.go.jp/sinko/josei/kikin/tabid/744/Default.aspx
17) 独立行政法人日本スポーツ振興センター寄附のお願い．http://www.jpnsport.go.jp/corp/gaiyou/tabid/319/Default.aspx
18) 公益財団法人生命保険文化センター．ほけんのキホン－イラストでわかる生命保険．2013.
19) 公益財団法人生命保険文化センター．ライフプラン情報ブック－データで考える生活設計．2014.
20) エンターテイメント・ロイヤーズ・ネットワーク編．スポーツ法務の最前線－ビジネスと法の統合－．2015.

女性アスリート支援に関する調査

（選手用）

本調査は、文部科学省の委託事業『女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究』』の一環として、国立スポーツ科学センター（以下、「JISS」）が実施するものです。本調査は女性アスリートの競技継続、ならびに競技力向上を目指し、女性アスリートが求めているサポート内容を把握するために実施しています。JOC 強化指定女性選手、及び JOC 加盟中央競技団体の強化対象女性選手の方を対象としています。本調査で得られた情報はすべて数量化されますので、個人が特定されるようなことは一切ありません。この調査用紙は、集計後に JISS の責任において破棄をいたします。自由意思に基づき、お答えできる範囲で結構ですので、ご協力をお願い致します。

«連絡先» 国立スポーツ科学センター（JISS）
メディカルセンター 女性アスリート調査研究
（担当：土肥、村上）
〒115-0056 東京都北区西が丘３－１５－１
TEL：03－5963－0211（内線 2258）
FAX：03－5963－0212
E-mail：josei.chosa@jpnsport.go.jp

※回答の所要時間は、約２０分程度です。
※ご回答されたアンケートは、封筒（切手は不要）に入れ、１週間以内にご投函ください。
※以下の各項目の空欄を埋め、また該当する箇所にチェック印☑を入れてください。

1.競技名:

□1.陸上競技
□2.水泳（競泳）
□3.水泳（飛込）
□4.水泳（水球）
□5.水泳（ｼﾝｸﾛﾅｲｽﾞﾄﾞｽｲﾐﾝｸﾞ）
□6.サッカー
□7.テニス
□8.ボート
□9.ホッケー
□10.ボクシング
□11.バレーボール（ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ）
□12.バレーボール（ﾋﾞｰﾁﾊﾞﾚｰ）
□13.体操（体操）
□14.体操（新体操）
□15.体操（トランポリン）
□16.バスケットボール
□17.レスリング
□18.セーリング
□19.ウエイトリフティング
□20.ハンドボール
□21.自転車
□22.卓球
□23.馬術
□24.フェンシング
□25.柔道
□26.バドミントン
□27.ライフル射撃
□28.近代五種
□29.ラグビーフットボール
□30.カヌー
□31.アーチェリー
□32.クレー射撃
□33.トライアスロン
□34.ゴルフ
□35.テコンドー
□36.スキー（アルペン）
□37.スキー（ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ）
□38.スキー（ジャンプ）
□39.スキー（ﾉﾙﾃﾞｨｯｸ複合）
□40.スキー（ﾌﾘｰｽﾀｲﾙ）
□41.スキー（ｽﾉｰﾎﾞｰﾄﾞ）
□42.スケート（ｽﾋﾟｰﾄﾞｽｹｰﾄ）
□43.スケート（ﾌｨｷﾞｭｱｽｹｰﾄ）
□44.スケート（ｼｮｰﾄﾄﾗｯｸ）
□45.アイスホッケー
□46.ボブスレー
□47.スケルトン
□48.リュージュ
□49.カーリング
□50.バイアスロン
□51.ソフトテニス
□52.軟式野球
□53.相撲
□54.ソフトボール
□55.弓道
□56.剣道
□57.山岳
□58.空手
□59.銃剣道
□60.なぎなた
□61.ボウリング
□62.野球
□63.武術太極拳
□64.スカッシュ
□65.ビリヤード
□66.ボディビル
□67.ダンススポーツ
□68.その他
（ ）

1-35:夏季競技 73.6%(419)
36-50:冬季競技 13.4% (76)
51-67:非オリンピック競技 13.0%(74)
N=569

2.年齢： **N=577 平均 23.25±5.13 歳**
□１． -18 歳 **14.9%(86)** □２．19-22 歳 **35.2%(203)** □３．23-24 歳 **16.5%(95)**
□４．25-30 歳 **26.7% (154)** □５．31 歳 **6.8%(39)**

3.競技年数： **N=569 平均 13.12±4.98 年**
□１． -5 年 **6.7%(38)** □２．6-10 年 **25.0%(142)** □３．11-15 年 **36.0%(205)**
□４．16-20 年 **26.4% (150)** □５.21 年以上 **6.0%(34)**

4.選手区分： **N=529** □1.プロ選手 **15.9% (84)** □2.アマチュア選手 **84.1% (445)**

5.**最高成績**： **N=553**
□1.五輪メダル獲得 **4.9% (27)** □5.国際大会入賞 **15.0% (83)**
□2.五輪入賞 **5.8% (32)** □6.国際大会出場 **22.8% (126)**
□3.五輪出場 **6.5% (36)** □7.国内大会出場 **13.4% (74)**
□4.国際大会３位以内 **42.0% (232)** □8.その他 **0.5% (3)**
※複数回答がある為、合計比率が 100%を超える

6.配偶者の有無： **N=575**
□1.既婚 **4.0%(23)** ⇒ □同居 **82.6%(19)** □別居 **17.4%(4)** □その他 **-%(-)**
□2.未婚 **96.0%(552)**

7.子どもの有無： **N=566**
□1.あり **1.6%(9)**
⇒子どもの人数 **N=9 平均 1.11±0.31** 1人:**88.9% (8)**、2人:**11.1% (1)**
⇒子どもの年齢

	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5-9 歳	10 歳以上	平均（歳）
1 人目 N=9	11.1% (1)	11.1% (1)	11.1% (1)	- (-)	- (-)	44.4% (4)	22.2% (2)	6.22±5.27
2 人目 N=1	- (-)	- (-)	- (-)	100.0% (1)	- (-)	- (-)	- (-)	3.00±0.00
全員 N=10	11.1% (1)	11.1% (1)	11.1% (1)	11.1% (1)	- (-)	44.4% (4)	22.2% (2)	6.56±5.08

□2.なし **98.4%(557)**

8.両親との同居近居：**N=573**
□1.同居 **31.4%(180)**
□2.別居（電車や自家用車等での移動を含め、**30 分未満**） **3.3%(19)**
□3.別居（電車や自家用車等での移動を含め、**30 分以上**） **61.8%(354)**
□4.その他 **3.5%(20)**

9．職業： **N=569**
□１．学生・大学院生 **41.3%(235)** □５．パート・アルバイト **3.0%(17)**
□２．正社員 **33.9%(193)** □６．自営業 **1.9%(11)**
□３．契約社員・嘱託 **16.7%(95)** □７．無職 **1.9%(11)**
□４．派遣社員 **0.4%(2)** □８．その他 **0.9%(5)**

10．日本スポーツ振興センターによるスポーツ振興基金助成金（アスリート助成）：**N=551**
□１．受給している **20.3%(112)** □２．受給していない **79.7%(439)**

以下の質問では、あなたの競技環境における支援についてお尋ねしています。本調査では、競技団体、所属企業、*JISS*、家族等含め、**全ての関係者からの支援**と考えてご回答ください。

女性アスリートへのサポート内容についてお伺いします

あなたが競技を継続する上で、**現在困難であること**や**直面している課題**についてお聞きします。**あなた自身の現状を踏まえてお答えください。**以下の質問１～質問８について、該当する箇所に○をつけてください。「その他」に該当する場合は番号を○で囲み、（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

質問１．「身体面のケア」について
（１）あなたは怪我や病気など、「身体的な問題」を抱えることがありますか。 **N=559 平均 3.01±1.27**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
13.1% (73)	25.8% (144)	26.1% (146)	19.1% (107)	15.9% (89)

（２）**あなたが「身体的な問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．スポーツドクターによる怪我や病気の治療 N=567 平均 3.36±1.43	29.3% (166)	22.0% (125)	20.6% (117)	11.3% (64)	16.8% (95)
２．怪我のリハビリテーション N=565 平均 3.25±1.44	27.4% (155)	20.4% (115)	18.6% (105)	17.3% (98)	16.3% (92)
３．怪我や病気への予防と対策 N=565 平均 3.30±1.37	25.0% (141)	24.1% (136)	22.7% (128)	13.1% (74)	15.2% (86)
４．食事・栄養指導 N=567 平均 2.83±1.43	18.5% (105)	15.0% (85)	21.3% (121)	21.0% (119)	24.2% (137)
５．月経不順や貧血への対処 N=566 平均 2.36±1.44	12.7% (72)	11.7% (66)	17.1% (97)	16.1% (91)	42.4% (240)
６．摂食障害等への対処 N=560 平均 2.04±1.38	10.5% (59)	6.4% (36)	15.4% (86)	12.0% (67)	55.7% (312)
７．睡眠障害への対処 N=560 平均 2.08±1.37	9.6% (54)	8.4% (47)	15.4% (86)	13.9% (78)	52.7% (295)
８．その他 N= 44 平均 1.75±1.13	4.5% (2)	2.3% (1)	20.5% (9)	9.1% (4)	63.6% (28)

質問２．「心理面のケア」について
（１）あなたは悩みやストレスなど、「心理的な問題」を抱えることがありますか。 **N=557 平均 2.90±1.19**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
9.9% (55)	22.4% (125)	29.3% (163)	24.2% (135)	14.2% (79)

（２）**あなたが「心理的な問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．気分転換やリラックスできる場の提供 N=570 平均 2.72±1.35	12.1% (69)	19.3% (110)	23.3% (133)	19.5% (111)	25.8% (147)
２．競技に集中できる環境整備 N=567 平均 3.62±1.36	35.1% (199)	25.9% (147)	15.5% (88)	12.3% (70)	11.1% (63)
３．心理面の強化、メンタルトレーニング N=570 平均 2.51±1.37	10.7% (61)	16.3% (93)	19.3% (110)	20.7% (118)	33.0% (188)
４．心理面での問題に対応する相談窓口、スポーツカウンセリング N=566 平均 1.96±1.24	6.4% (36)	6.9% (39)	16.1% (91)	17.3% (98)	53.4% (302)
５．支援ネットワークづくり（コーチ、競技団体、ドクター、家族などとの連携） N=566 平均 2.76±1.42	15.7% (89)	17.3% (98)	21.7% (123)	17.5% (99)	27.7% (157)
６．その他 N=38 平均 1.45±1.04	5.3% (2)	-% (-)	10.5% (4)	2.6% (1)	81.6% (31)

質問３．「人的サポート資源の充実」について
（１）あなたを取り巻く「指導者やスタッフなど人的サポート資源が充実していない」と思うことがありますか。 **N=557 平均 2.19±1.18**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
4.3% (24)	10.8% (60)	22.4% (125)	25.0% (139)	37.5% (209)

（２）**あなたが「人的サポート資源が充実していないという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．指導者、スタッフなどの資質向上 N=549 平均 3.24±1.35	23.9% (131)	21.3% (117)	24.2% (133)	16.6% (91)	14.0% (77)
２．女性指導者、女性スタッフなどの増加 N=546 平均 2.63±1.40	14.1% (77)	14.5% (79)	21.8% (119)	19.4% (106)	30.2% (165)
３．競技団体における女性役員の配置 N=545 平均 2.68±1.31	12.3% (67)	13.6% (74)	28.1% (153)	21.7% (118)	24.4% (133)
４．国際大会で活躍する女性審判員の育成 N=540 平均 2.58±1.28	10.4% (56)	12.4% (67)	28.1% (152)	23.0% (124)	26.1% (141)
５．ハラスメントへの対応 N=541 平均 2.56±1.38	12.9% (70)	12.0% (65)	24.4% (132)	19.0% (103)	31.6% (171)
６．その他 N=32 平均 1.81±1.16	3.1% (1)	6.3% (2)	21.9% (7)	6.3% (2)	62.5% (20)

質問４．的確な「情報の提供」について
（１）あなたは競技に関する「情報提供が不十分」であると思うことがありますか。 **N=546 平均 2.38±1.16**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
4.8% (26)	13.4% (73)	25.6% (140)	28.0% (153)	28.2% (154)

（２）**あなたが「情報提供が不十分であるという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．指導者、コーチからの適切な技術指導 N=555 平均 3.91±1.15	40.7% (226)	27.2% (151)	18.0% (100)	10.5% (58)	3.6% (20)
２．医学的サポートに関する情報提供 N=555 平均 3.01±1.31	15.9% (88)	23.1% (128)	24.0% (133)	20.9% (116)	16.2% (90)
３．トレーニング方法に関する情報提供 N=552 平均 3.54±1.22	26.3% (145)	29.3% (162)	24.1% (133)	12.5% (69)	7.8% (43)
４．映像分析や IT 戦略に関する情報提供 N=554 平均 2.98±1.40	19.5% (108)	18.2% (101)	23.3% (129)	19.1% (106)	19.9% (110)
５．アンチドーピングに関する情報提供 N=556 平均 3.28±1.22	20.0% (111)	24.3% (135)	26.8% (149)	21.2% (118)	7.7% (43)
６．国内外の女性スポーツに関する情報提供 N=555 平均 2.26±1.20	5.9% (33)	8.8% (49)	25.6% (142)	24.1% (134)	35.5% (197)
７．メディアトレーニングに対する情報提供 N=554 平均 2.21±1.22	6.3% (35)	9.7% (54)	20.4% (113)	26.0% (144)	37.5% (208)
８．リスクマネジメントに対する情報提供（事故対応、保険制度など） N=554 平均 2.14±1.26	6.7% (37)	9.2% (51)	19.5% (108)	21.1% (117)	43.5% (241)
９．その他 N=33 平均 1.82±1.24	3.0% (1)	12.1% (4)	15.2% (5)	3.0% (1)	66.7% (22)

質問５．「競技環境の整備」について

（１）あなたは「競技環境が整備されていない」と思うことがありますか。**N＝553　　平均 2.07±1.23**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
5.2% (29)	10.1% (56)	17.4% (96)	20.4% (113)	46.8% (259)

（２）**あなたが「競技環境が整備されていないという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．活動の拠点となる練習・トレーニング施設の充実 N＝548 平均 3.90±1.25	45.6% (250)	21.5% (118)	15.5% (85)	11.9% (65)	5.5% (30)
２．利用可能な競技施設の紹介 N＝548 平均 3.25±1.41	28.1% (154)	16.8% (92)	21.4% (117)	19.7% (108)	14.1% (77)
３．国際大会や海外合宿への参加機会の増加 N＝548 平均 3.24±1.36	24.6% (135)	20.4% (112)	22.3% (122)	19.3% (106)	13.3% (73)
４．グローバルで活躍するためのアスリートプログラムへの参加機会（言語スキル獲得、社会性など） N＝548 平均 2.00±1.22	6.6% (36)	5.8% (32)	17.3% (95)	21.7% (119)	48.5% (266)
５．競技用具やウェアなどの開発 N＝548 平均 3.01±1.43	22.1% (121)	16.8% (92)	21.5% (118)	19.5% (107)	20.1% (110)
６．その他 N＝28 平均 1.96±1.40	10.7% (3)	7.1% (2)	10.7% (3)	10.7% (3)	60.7% (17)

質問６．「金銭的な支援」について

（１）あなたは「金銭面で問題」があると思うことがありますか。　**N＝554　　平均 2.59±1.40**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
12.6% (70)	16.6% (92)	19.7% (109)	19.3% (107)	31.8% (176)

（２）**あなたが「金銭的な問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．合宿・遠征費への資金援助 N＝563 平均 3.89±1.27	45.5% (256)	21.7% (122)	15.6% (88)	10.5% (59)	6.7% (38)
２．スポーツ用品や用具などの提供 N＝564 平均 3.48±1.43	33.9% (191)	21.1% (119)	18.1% (102)	12.6% (71)	14.4% (81)
３．就職支援、雇用の促進 N＝550 平均 2.69±1.54	20.0% (110)	13.6% (75)	16.4% (90)	15.8% (87)	34.2% (188)
４．企業とのスポンサー契約 N＝557 平均 2.57±1.59	20.8% (116)	10.6% (59)	14.0% (78)	13.8% (77)	40.8% (227)
５．コンサルティングを行う支援団体の紹介（法律、税務などのマネジメントなど） N＝551 平均 1.84±1.26	7.1% (39)	5.8% (32)	13.1% (72)	12.3% (68)	61.7% (340)
６．その他 N＝26 平均 1.69±1.26	7.7% (2)	3.8% (1)	11.5% (3)	3.8% (1)	73.1% (19)

質問７．「キャリアプランの支援」について

（１）あなたは「キャリアプランに不安」があると思うことがありますか。　**N＝542　　平均 2.47±1.32**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
9.0% (49)	14.6% (79)	23.6% (128)	20.3% (110)	32.5% (176)

（２）**あなたが「キャリアプランに不安があるという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．キャリア情報が提供されるセミナーや講習会などへの参加機会 N＝535 平均 1.83±1.07	2.8% (15)	4.3% (23)	20.9% (112)	17.0% (91)	55.0% (294)
２．進学や海外留学などへの支援制度 N＝534 平均 1.70±1.05	2.2% (12)	6.0% (32)	12.7% (68)	17.4% (93)	61.6% (329)
３．セカンドキャリアへの対応窓口（引退後のキャリアを相談するなど） N＝534 平均 1.86±1.15	4.7% (25)	4.7% (25)	18.0% (96)	17.2% (92)	55.4% (296)
４．仕事や学業との両立 N＝530 平均 2.51±1.34	10.4% (55)	13.6% (72)	24.9% (132)	18.9% (100)	32.3% (171)
５．職域拡大を視野に入れた就職に関する情報提供 N＝530 平均 1.92±1.12	3.6% (19)	6.0% (32)	20.0% (106)	20.0% (106)	50.4% (267)
６．その他 N＝36 平均 1.53±1.07	2.8% (1)	5.6% (2)	11.1% (4)	2.8% (1)	77.8% (28)

質問８．「競技スポーツに対する社会的評価の向上」について

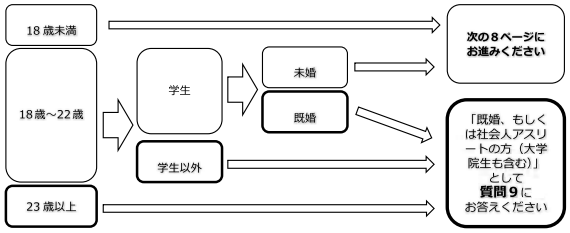
（１）あなたは「競技スポーツに対する社会的評価が低い」と思うことがありますか。**N＝556 平均 2.88±1.26**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
11.7% (65)	21.2% (118)	27.7% (154)	21.9% (122)	17.4% (97)

（２）**あなたが「競技スポーツに対する社会的評価が低い」という問題を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．専門種目への認知度の向上 N＝551 平均 2.66±1.20	9.1% (50)	14.2% (78)	30.5% (168)	26.5% (146)	19.8% (109)
２．競技に対する専心性（専念していること）への評価向上 N＝549 平均 2.78±1.20	10.2% (56)	16.0% (88)	31.9% (175)	25.0% (137)	16.9% (93)
３．情報メディアへの効果的なキャンペーン N＝548 平均 2.32±1.19	5.8% (32)	11.1% (61)	23.9% (131)	27.7% (152)	31.4% (172)
４．サポーターや競技ファンの増加 N＝550 平均 2.43±1.22	6.7% (37)	13.3% (73)	24.7% (136)	27.1% (149)	28.2% (155)
５．社会貢献活動の促進 N＝547 平均 2.45±1.17	5.7% (31)	12.8% (70)	28.3% (155)	27.2% (149)	26.0% (142)
６．功績や実績を讃える表彰制度の充実 N＝547 平均 2.78±1.21	9.7% (53)	17.6% (96)	31.1% (170)	24.1% (132)	17.6% (96)
７．その他 N＝25 平均 1.84±1.29	8.0% (2)	4.0% (1)	16.0% (4)	8.0% (2)	64.0% (16)

既婚、もしくは社会人アスリート（大学院生も含む）の方にお聞きします。
以下の**質問９**にご回答ください



質問９．「家庭生活・育児との両立」について

（１）あなたは「家庭生活・育児との両立に悩んでいる」と思うことがありますか。**N＝303　平均 1.78±1.14**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
3.6% (11)	8.3% (25)	10.2% (31)	18.5% (56)	59.4% (180)

（２）**あなたが「家庭生活・育児との両立に悩んでいるという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の競技環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１．家事の負担軽減（炊事、洗濯、掃除、買い物など） N＝288 平均 2.48±1.57	17.0% (49)	14.6% (42)	12.5% (36)	10.8% (31)	45.1% (130)
２．競技団体における産休育休など、復帰に向けた制度の充実 N＝269 平均 1.86±1.24	5.6% (15)	8.6% (23)	11.2% (30)	15.2% (41)	59.5% (160)
３．子供の病気看護休暇制度の充実（子供が病気の時に代表合宿などの期間を短縮できるなど） N＝260 平均 1.80±1.22	6.2% (16)	5.4% (14)	13.1% (34)	13.5% (35)	61.9% (161)
４．育児相談に関する窓口の紹介 N＝258 平均 1.56±0.98	2.3% (6)	3.9% (10)	10.5% (27)	14.0% (36)	69.4% (179)
５．体験者同士の情報を共有する場の提供 N＝260 平均 1.60±0.98	2.3% (6)	3.1% (8)	13.1% (34)	15.0% (39)	66.5% (173)
６．妊娠期、産前産後期のトレーニング方法の紹介 N＝259 平均 1.50±0.98	2.7% (7)	3.5% (9)	8.5% (22)	12.0% (31)	73.4% (190)
７．大会、遠征でのベビーシッター制度の充実 N＝257 平均 1.34±0.79	1.6% (4)	1.9% (5)	4.7% (12)	12.8% (33)	79.0% (203)
８．大会での託児所、チャイルドルームの設置 N＝257 平均 1.36±0.81	1.2% (3)	2.3% (6)	7.0% (18)	10.1% (26)	79.4% (204)
９．大会でのおむつ交換、授乳室の設置 N＝257 平均 1.36±0.79	1.2% (3)	1.9% (5)	7.0% (18)	11.7% (30)	78.2% (201)
１０．育児サポートに関する経済的な援助 N＝256 平均 1.40±0.84	1.2% (3)	3.1% (8)	7.0% (18)	11.7% (30)	77.0% (197)
１１．その他 N＝20 平均 1.15±0.48	-% (-)	-% (-)	5.0% (1)	5.0% (1)	90.0% (18)

質問１０．その他

これまでにご回答いただいた**質問１～質問９の項目以外**に、現在**あなたが抱える課題及び必要とするサポート内容**があれば、下記の空欄にできる限り具体的にご記載ください。

- ✓ 所属クラブチームでの練習環境、トレーナーのサポートがとても必要だと感じている。
- ✓ JISS で心理・栄養・走り方のトレーニングなど、高いレベルでのスポーツに必要な知識を学ぶことができる。より低い年齢でできたら、競技全体のレベルは上がる。
- ✓ 自分の知識だけでは補えない栄養サポート、メンタル面でのケアもサポートしてほしい。
- ✓ 自分のためにアスリートをしているのか、周りのためにやっているのか、わからなくなっている。
- ✓ これまでは様々な箇所の故障に悩み、思うように練習が出来ず、結果も出ない時期が長く続いたが、所属先が変わり、信頼できるコーチに出会うことができた今は、心身ともに状態がすごく良くなり、集中して競技に取組むことができている。今は、悩みやストレスなどはなく、充実している。
- ✓ トレーニングやケアの時間を優先すると、バイトをする時間を限られ、金銭面でとても困っている。
- ✓ 在籍学校で欠席、遅刻、早退が多く学習面が遅れていく不安、更には高校進学問題に不安がある。
- ✓ 社会人として新たなスタートとなるが、学生の頃のように全ての国内・外の試合に出場することができるのか、今は不安を抱えている。企業との連携（実業団の充実）をもっと図って頂きたい。
- ✓ 正社員をパート勤務に変え、競技生活を続けている。セミナーやサポート等、関東圏での開催が多く、参加費用や移動時間等の負担が大きく参加を断念することがほとんどである。情報が届くことも遅く、自分から積極的に求めることで個人的には得られることも。地方へのサポート体制の強化を切望している。
- ✓ 以前、女性アスリートの支援を頂き、競技に安心して取組めた。また、同じ立場のママアスリート達との交流なども深める事も出来た。母に遠征中は預け、日数分お金の支払いをしている。新たなママアスリートがどんどんサポートを受け、競技を少しでも長く続けて欲しい。
- ✓ 結婚・出産の自由はほぼ無く、女性が競技者として長く続けられる環境にはほど遠い。
- ✓ 女性アスリートとして育児に対して説明等がなさすぎる。これから出産をしたいと思う。アメリカでは復帰へのプログラムがあると聞き、日本用でもあったらいい。

など

質問１１．下記の項目の中で、競技力向上を目指す**あなたが必要と考えるサポート内容**はどれですか。あなたが必要と思うサポートから順に**上位３つ**を選び、**質問１～10 までの数字を記入**して下さい。

※1 位 3 点、2 位 2 点、3 位 1 点として点数化し、全ての項目の総得点を算出した　（N=544）

質問１．	身体面でのケア	**788 点**
質問２．	心理面でのケア	**481 点**
質問３．	人的サポート資源の充実	**221 点**
質問４．	的確な情報提供	**152 点**
質問５．	競技環境の整備	**461 点**
質問６．	金銭的な支援	**663 点**
質問７．	キャリアプランの支援	**163 点**
質問８．	競技スポーツに対する社会的評価の向上	**260 点**
質問９．	家庭生活・育児との両立	**73 点**
質問１０．	その他	**2 点**

１位：　質問（　　）	２位：　質問（　　）	３位：　質問（　　）

質問１２．サポート体制の利用度、満足度について

（１） 競技力向上を目指したアスリートを支援するために、様々なサポート活動が取組まれています。あなたは、本調査において**これまで回答したようなサポート体制**を、どの程度**利用**されていますか。

N=530 平均 2.10±1.26

常に利用している		しばしば利用している		時々利用している		たまに利用している		全く利用していない
5.1%	–	**12.6%**	–	**16.4%**	–	**18.9%**	–	**47.0%**
(27)		**(67)**		**(87)**		**(100)**		**(249)**

（２） 上記で**利用していると回答した方**は、具体的にどんなサポートを利用されているのか、箇条書きで簡潔にご記入ください。

●身体●
・ドクターによる診察、治療
・メディカルチェック
・リハビリ
・トレーニングとケア
・予防
・栄養指導
・食事提供

●心理●
・メンタルトレーニング
・カウンセリング
・競技仲間から心理サポート
・チームトレーナーに相談

●人的●
・女性スタッフが増えた
・会社の競技仲間からのサポート

●情報●
・技術指導
・NF からメールでの情報提供
・トレーニング指導
・動作解析や映像分析
・フィットネスチェックやそのフィードバック
・風洞実験
・競技生活に関わる様々な講義

●金銭面●
・施設利用時の資金援助
・交通費、合宿・遠征費の援助
・用具・用品の提供、または一部負担
・助成金、強化費の受給
・栄養補助食品費
・診察費
・コーチ費用の免除

●キャリア●
・就職支援
・アスナビ
・NTC キャリアサポート
・所属先のアスリート契約
・職場で競技ができる体制
・企業所属なので就職の心配なし
・委嘱状提出により学校公欠
・英会話の授業

●育児●
・家族からのサポート
・託児所
・女性アスリート支援

など

（３） あなたは、**これまで回答したような女性アスリートへのサポート体制**に対して、**総じて**どの程度**満足**をされていますか。

N=453 平均 3.83±1.08

非常に満足している		満足している		少し満足している		少し不満である		不満である		非常に不満である
2.4%	–	**27.6%**	–	**34.9%**	–	**23.6%(**	–	**8.8%**	–	**2.6%**
(11)		**(125)**		**(158)**		**107)**		**(40)**		**(12)**

（４）満足、ないしは不満とされた**理由**を下欄にご記入ください。

（満足）
- ✓ 婦人科の診療を受け、身体の悩みについて相談できた
- ✓ 女性スタッフが１人いるだけで、気持ちが安定する
- ✓ 競技に集中できる環境を提供してもらっている
- ✓ 特に問題なく競技ができているので満足
- ✓ サポート体制を理解できていない

など

（不満）
- ✓ 地方居住であると利用が難しい
- ✓ 男性スタッフが多いため、女性ならではの悩みを打ち明けることができない
- ✓ 結婚、出産後も競技を続けている人はどのように両立させているのかもっと情報がほしい
- ✓ サポートがない／知らない

など

年収、競技に関わる費用や自己負担額など、金銭面に関してお伺いします

質問１３．あなたの**年収**（額面）はおおよそどれくらいですか。**スポンサーなどによる補てん（足りないお金を補助すること）を除き**、差支えがなければお答えください。スポンサー費、助成金、競技団体による強化費、所属企業からの活動支援費なども補てんに含みます。

N=518

□１． 収入なし	**31.7%(164)**	□８． 600 万～700 万円未満	**1.5%(8)**
□２． ～100 万円未満	**10.2%(53)**	□９． 700 万～800 万円未満	**1.0%(5)**
□３． 100 万～200 万円未満	**10.8%(56)**	□１０． 800 万～900 万円未満	**-%(-)**
□４． 200 万～300 万円未満	**16.2%(84)**	□１１． 900 万～1000 万円未満	**-%(-)**
□５． 300 万～400 万円未満	**10.0%(52)**	□１２． 1000 万円以上	**-%(-)**
□６． 400 万～500 万円未満	**5.2%(27)**	□１３． わからない／答えたくない	**10.8%（56）**
□７． 500 万～600 万円未満	**1.5%(8)**		

質問１４．年間を通じた競技に関わる費用、スポンサーなどによる補てん、１年分の自己負担額の内訳をご記入ください。スポンサー及び所属団体等による補てんについては**「あり／なし」のどちらかに**○をつけてください。金額はおおよその値段を１万円単位としてください。

＜例＞	競技に関わる費用（万円）	スポンサーなどによる補てん	補てん額（万円）	自己負担額（万円）
１．用品・用具費	３６	(あり) ／ なし	２７	９
２．合宿・遠征費	１１０	(あり) ／ なし	８７	２３
３．医療費	１３	(あり) ／ なし	８	５
４．栄養補助食品費	１１	(あり) ／ なし	６	５
５．競技施設使用料	１７	(あり) ／ なし	１２	５
６．コーチなどへの謝金・契約金	４８	(あり) ／ なし	３７	１１
７．その他（　　）	５	(あり) ／ なし	３	２
合　計	２４０		１８０	６０

		競技に関わる費用（万円）	スポンサーよる補てん	補てん額（万円）	自己負担額（万円）
１.用品・用具費	**N**	**234**	**417**	**162**	**233**
	5 万円未満	**8.5%(20)**		**27.8%(45)**	**45.5%(106)**
	5-10 万円未満	**12.8%(80)**		**8.6%(14)**	**12.9%(30)**
	10-20 万円未満	**22.6%(53)**		**20.4%(33)**	**18.9%(44)**
	20-30 万円未満	**17.1%(40)**	**あり：61.2%（255）**	**9.9%(16)**	**12.9%(30)**
	30-40 万円未満	**14.1%(33)**	**なし：38.8%（162）**	**14.2%(23)**	**5.2%(12)**
	40-50 万円未満	**4.3%(10)**		**1.9%(3)**	**1.3%(3)**
	50-100 万円未満	**12.0%(28)**		**11.7%(19)**	**2.6%(6)**
	100 万円以上	**8.5%(20)**		**5.6%(9)**	**0.9%(2)**
	平均（万円）	**38.65± 82.03**		**28.67±54.13**	**10.68±16.17**

		競技に関わる費用（万円）	スポンサーよる補てん	補てん額（万円）	自己負担額（万円）
２．合宿・遠征費	**N**	**205**	**410**	**151**	**217**
	5 万円未満	**3.4%(7)**		**17.9%(27)**	**42.4%(92)**
	5-10 万円未満	**3.4%(7)**		**2.6%(4)**	**6.9%(15)**
	10-20 万円未満	**9.3%(19)**		**8.6%(13)**	**11.1%(24)**
	20-30 万円未満	**8.3%(17)**	**あり:65.9%(270)**	**5.3%(8)**	**11.1%(24)**
	30-40 万円未満	**6.3%(13)**	**なし:34.1%(140)**	**7.3%(11)**	**4.6%(10)**
	40-50 万円未満	**5.9%(12)**		**7.9%(12)**	**3.2%(7)**
	50-100 万円未満	**19.5%(40)**		**19.9%(30)**	**9.2%(20)**
	100 万円以上	**43.9%(90)**		**30.5%(46)**	**11.5%(25)**
	平均（万円）	**104.05± 167.24**		**73.14±94.54**	**35.29±139.86**
３．医療費	**N**	**213**	**400**	**132**	**214**
	5 万円未満	**23.9%(51)**		**72.7%(96)**	**42.1%(90)**
	5-10 万円未満	**25.4%(54)**		**12.9%(17)**	**24.3%(52)**
	10-20 万円未満	**35.2%(75)**		**7.6%(10)**	**24.3%(52)**
	20-30 万円未満	**7.5%(16)**	**あり:27.5%(110)**	**5.3%(7)**	**4.2%(9)**
	30-40 万円未満	**2.8%(6)**	**なし 72.5%(290)**	**1.5%(2)**	**0.9%(2)**
	40-50 万円未満	**2.3%(5)**		**-%(-)**	**1.4%(3)**
	50-100 万円未満	**0.9%(2)**		**-%(-)**	**1.4%(3)**
	100 万円以上	**1.9%(4)**		**-%(-)**	**1.4%(3)**
	平均（万円）	**13.78±35.53**		**3.44±6.59**	**8.10±13.50**
４．栄養補助食品費	**N**	**213**	**396**	**138**	**207**
	5 万円未満	**42.3%(90)**		**71.7%(99)**	**64.7%(134)**
	5-10 万円未満	**27.2%(58)**		**13.8%(19)**	**21.3%(44)**
	10-20 万円未満	**19.7%(42)**		**8.0%(11)**	**10.6%(22)**
	20-30 万円未満	**5.6%(12)**	**あり:34.1%(135)**	**3.6%(5)**	**2.4%(5)**
	30-40 万円未満	**1.9%(4)**	**なし:65.9%(261)**	**0.7%(1)**	**0.5%(1)**
	40-50 万円未満	**0.5%(1)**		**0.7%(1)**	**-%(-)**
	50-100 万円未満	**1.9%(4)**		**0.7%(1)**	**0.5%(1)**
	100 万円以上	**0.9%(2)**		**0.7%(1)**	**-%(-)**
	平均（万円）	**8.10±13.50**		**4.34±10.98**	**4.13±7.53**

		競技に関わる費用（万円）	スポンサーよる補てん	補てん額（万円）	自己負担額（万円）
５．競技施設使用料	**N**	**190**	**391**	**122**	**186**
	5 万円未満	**52.1%(99)**		**65.6%(80)**	**74.2%(138)**
	5-10 万円未満	**10.5%(20)**		**9.0%(11)**	**8.1%(15)**
	10-20 万円未満	**20.0%(38)**		**14.8%(18)**	**11.8%(22)**
	20-30 万円未満	**7.9%(15)**	**あり:45.0%(176)**	**4.1%(5)**	**2.2%(4)**
	30-40 万円未満	**4.7%(9)**	**なし:55.0%(215)**	**4.9%(6)**	**2.2%(4)**
	40-50 万円未満	**0.5%(1)**		**-%(-)**	**-%(-)**
	50-100 万円未満	**2.1%(4)**		**1.6%(2)**	**0.5%(1)**
	100 万円以上	**2.1%(4)**		**-%(-)**	**1.1%(2)**
	平均（万円）	**10.42±20.63**		**5.75±9.94**	**5.17±16.82**
６．コーチなどへの謝金、契約金	**N**	**170**	**364**	**99**	**153**
	5 万円未満	**63.5%(108)**		**77.8%(77)**	**79.7%(122)**
	5-10 万円未満	**2.9%(5)**		**2.0%(2)**	**1.3%(2)**
	10-20 万円未満	**10.6%(18)**	**あり:20.1%(73)**	**5.1%(5)**	**7.2%(11)**
	20-30 万円未満	**3.5%(6)**	**なし:79.9%(291)**	**3.0%(3)**	**2.6%(4)**
	30-40 万円未満	**3.5%(6)**		**2.0%(2)**	**2.0%(3)**
	40-50 万円未満	**2.9%(5)**		**3.0%(3)**	**0.7%(1)**
	50-100 万円未満	**5.3%(9)**		**4.0%(4)**	**2.6%(4)**
	100 万円以上	**7.6%(13)**		**3.0%(3)**	**3.9%(6)**
	平均（万円）	**29.05±98.65**		**9.56±27.41**	**14.69±71.75**
７．その他（　　）			あり ／ なし		
合　計	**N**	**255**		**187**	**264**
	5 万円未満	**5.1%(13)**		**17.1%(32)**	**26.1%(69)**
	5-10 万円未満	**9.0%(23)**		**11.8%(22)**	**13.3%(35)**
	10-20 万円未満	**5.9%(15)**		**7.5%(14)**	**15.2%(40)**
	20-30 万円未満	**4.7%(12)**		**6.4%(12)**	**7.2%(19)**
	30-40 万円未満	**5.9%(15)**		**2.7%(5)**	**7.2%(19)**
	40-50 万円未満	**18.8%(48)**		**13.4%(25)**	**14.0%(37)**
	50-100 万円未満	**25.9%(66)**		**27.8%(52)**	**11.7%(31)**
	100 万円以上	**24.7%(63)**		**13.4%(25)**	**5.3%(14)**
	平均（万円）	**167.31±275.62**		**98.83±125.63**	**67.08±186.45**

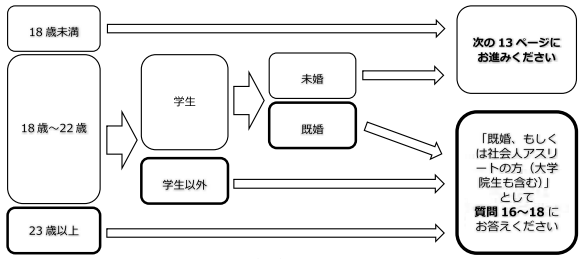
※合計はこちらで計算致します

質問１５．現在、あなたが競技継続ならびに競技力向上を果たす上で、**資金調達など金銭面での課題、対応策、必要なサポート内容**などがあれば、下記の空欄にできるだけ具体的にご記入ください。

- ✓ 海外遠征でポイントを獲得していくことがオリンピックまでの絶対条件だが、遠征費が足りない現実もある。スポンサー活動も女子だといつ結婚して出産するかわからないから、サポートできないと断られたことがある。
- ✓ 競技力向上のために必要なサポートとしては、国内外の女性スポーツに関する情報や医学的サポート、トレーニング方法に関する情報などを、身近にシェアできるような環境があれば良い。
- ✓ 内科に関する医療費は、一切サポートが出ない。現役中に生理不順になる人は多く、引退後、引きずる人も多い。しかし、これは全て自己負担。
- ✓ アスリートとして食生活も大切。そんなに高くはない収入の中で、節約をしながらバランスの良い食事を作ることは大変な部分もある。食生活面のサポートで何かあれば良い。
- ✓ 国内においても、海外においてもレンタカーは必要。私は個人的に負担している訳ではないので問題ないが、そういう車関係とスポンサー契約ができたらすごく遠征もしやすくなるのではないかとは思っている。飛行機も同じく、スケジュールがきつい場合、その中でも移動（荷物受け付け）などスムーズにいくようにしていただけたら有難い。
- ✓ １回の遠征につき、個人負担金が１０万ずつなので、所属の企業に負担してもらっているが、学生などは厳しい現実にある。スポンサーなどをつけて、金銭面でのサポートがあれば競技力向上にも繋がる。
- ✓ 来年から大学生になり、どの程度学校が支援してくれるかわからないので、心配である。海外で長期的に合宿をしたいが金銭的に難しいので、そのような専用の奨学金制度の充実や情報がほしい。
- ✓ 大学で競技を続けているが、学業と競技でアルバイトができず、生活費は奨学金を借りていた。その為、卒業後は返済しながらとなり金銭の余裕がない。練習環境には困っていないが今は借金が多くあるので、そちらに困っている。もう少し学業と競技にうち込めるような支援がほしいと思っている。また競技上とても道具にお金がかかる。維持をするのに大変なので、ウェアだけでなく道具も支援してほしい。
- ✓ 練習と大学でバイトする時間もなく、練習までの交通費や用具を揃えるための費用などの資金調達は、マイナースポーツのアマチュア選手にとっては大きな問題である。身体のケアのためにかかる治療費も問題である。また、海外遠征も、特Ａ選手のみしかサポートがなく他の選手には厳しい。
- ✓ 就職のアスリートナビを利用してみたい。年収、生活、練習環境を整えた上で、競技に取り組めるわずかな人材になることが必須条件。スポンサーになってもらえる企業が増えれば続ける人が増えると思う。
- ✓ 競技に集中するために現在、無給で休職中である。そのため、２０１６年のオリンピック以降に競技を継続できる見通しが立たない。競技に集中しながら収入を得る方法を相談できる場所があると嬉しい。海外のクラブに在籍しているが、帰国した際の活動費がないため、貯金を使いながら活動できる場所を転々としている。その部分のサポートがあれば非常にありがたい。
- ✓ ・語学（学校へ行けないから）・収入がない（親のお金で今やっている）・もっと競技を知ってほしい・飲み物は水道水（補食を取り入れたい）・競技が将来へつながらない（つながりにくい）
- ✓ まずはサポートをしてくれる企業を探すことだが、もし契約できるような話があっても交渉などが具体的に自分一人では厳しい。マネージャーがいないので、その後も自分自身でマネジメントしきれるか不安がある。大会の結果に応じて報奨金でサポートできれば、競技意欲に繋がるかもしれない。

など

既婚、もしくは社会人アスリート（大学院生も含む）の方にお聞きします。
以下の**質問１６．質問１７．質問１８．**にご回答ください



質問１６．「妊娠期、産前産後期のトレーニングサポート」についてお伺いします。
出産後、現役を続けると想定した場合の妊娠期のトレーニングに対する要望をお伺いします。いずれのトレーニングも**安全管理は最善を尽くして実施**される場合、参加したいと思うものにお答えください。YES なら１、NO なら２に○をつけてください。

	YES	NO
１．安産や健康・体調管理を目的とした既存のマタニティ向けフィットネスプログラム（エアロビクス、ヨガ、アクアビクスなど）【リスク小】**N=285**	**84.6% (241)**	**15.4% (44)**
２．既存のマタニティ向けフィットネスプログラムを元にした、アスリートとしての体力要素を維持するためのトレーニング（妊娠した元アスリートによる実施実績がある）【リスク中】**N=281**	**75.1% (211)**	**24.9% (70)**
３．妊娠期を考慮した、積極的に体力要素を強化するためにトレーニング（これまでに実施実績がない）【リスク大】**N=282**	**45.4% (128)**	**54.6% (154)**
４．トレーニングはやりたくない **N=271**	**14.0% (38)**	**86.0% (233)**

質問１７．産後期のトレーニングに対する要望をお伺いします。参加したいと思うものにお答えください。
YES なら１、NO なら２に○をつけてください。
※ 一般的に産後１ヶ月検診において、主治医の運動許可が得られた場合に運動が再開されます。
※ 一般的に産後６ヶ月で、骨盤の状態が出産前に戻ると言われています。
※強度に関しては、可能な範囲の運動から漸進的に強度を上げていき、最終的にはオリンピックを目指すトップアスリートとしてのトレーニングを計画しています。

	YES	NO
１．産後１ヶ月以内からのトレーニング再開（これまでに実施実績がない）【リスク大】**N=274**	**24.1% (66)**	**75.9% (208)**
２．産後１ヶ月以上・６ヶ月未満からのトレーニング再開（既存のマタニティ向けフィットネスプログラムとして実施実績がある）【リスク中】**N=277**	**69.0% (191)**	**31.0% (86)**
３．産後６ヶ月を過ぎるまでトレーニングはやりたくない **N=267**	**27.0% (72)**	**73.0% (195)**

質問１８．今後、競技を続けていく上で、出産後も現役を続行したいですか。YES なら１、NO なら２に○をつけてください **N=282**

YES	NO
31.9% (90)	**68.1% (192)**

女性アスリートへの支援に関する御意見などがございましたら下欄にご記入ください。
今後の調査研究の参考とさせていただきます。

- ✓ 競技に専念している期間にも、故障のリスクが増え、また、競技引退後の出産などへの影響も考えると、選手にも必要だが、選手を指導するコーチの方々にも「女性選手の育成」に対する指導法【意識＝特に、過剰な体重制限・食事制限など】を見直す機会・セミナー等を開き、参加してもらうような場を作っていただけると良い。
- ✓ 出産後、競技を続行していきたいと考えているが、妊娠中や産後トレーニング、過ごし方が分からない。不安な中、引退せざるを得ないのか。もっと情報が選手個人に入るようにする、もしくは電話での相談も受付けるような窓口を設けてほしい。出産できる年齢も競技できる年齢も限られている。両立できる環境を整え、能力のある人材を無駄にせず、日本のスポーツ界を盛り上げて欲しい。
- ✓ 競技を続けて、更に高みを目指していきたいと思う面と、若いうちに子供を産んでおきたいという気持ちが複雑に入り混じるようになってきた。
- ✓ 子供が小さいうちのサポート（幼少期）・金銭的なサポート（預ける人への）・産後間もない時の体のケア（骨ばんなどの矯正、体重管理、体力復帰）・ママアスリート向けの交流会や、ママになるアスリート向けの交流会・所属協会などでの提示（結婚・出産後のサポート）
- ✓ 妊娠・出産を経験した日本の女性アスリートの体験談や、講演会または、家庭・育児の両立しながら活躍されている女性アスリートの方の生活（日ごろどのようにトレーニングされているのか）などパンフレットなどで情報提供があればとても参考になる。
- ✓ 中高校生が、社会人、大学生と長く競技を続けるためにも、食事、トレーニングなど的確なアドバイスを設けられる講演など、引退したトップアスリートが、後輩に話ができる環境があれば良い。若くして過度なトレーニングや間違った栄養知識を行っていては、故障のリスクも高くなり、長く競技も続けられない。最近は月経不順になってまで体を酷使させてトレーニングをやっている場合もある。正しい知識を持ってやれば、沢山の可能性をつぶさなくて良い。大切なことを伝えていける提供の場を増やしてほしい。
- ✓ ナショナルチームに入るまでは、コンディションの詳しい行い方や整え方を知らなかったが、婦人科医の話や相談により気持ちがにもサポートして頂いている。特にピルの処方などは自分自身も知識が少なく抵抗があったが、月経周期に合わせたコンディショニングの行い方や気持ちの持って行き方を考え、競技に役立てるようになった。婦人科系の話は男性のコーチなどには言いづらいので、今後も相談する場が提供されたら良い。
- ✓ まだ生理がきていないので、もっと月経について知識や情報を取り入れたい。
- ✓ 自分の競技は現役年数が長くなるので他の一般スポーツと比べてもとても特殊で私達選手も先輩の実績が少ないこともあり（ここまで長く継続して選手生活を送るという）手探りの状態の中、年々変化する身体や体調をみながら、できるだけ長く、この競技普及に努めていきたい。
- ✓ 私は社会人になってから１人で練習することが多くなったが、やはりメンタルのケアは欲しいと感じている。学生の頃はチームの仲間と励まし合いながら取り組んでいたが、１人になると全て自分の中に溜めこんでしまう。些細なことで、落ちこんだり、気にしたりすることがとても多くなってしまったので、そんな時、スポーツを含めた生活について相談できる方がいれば…と何度も思っている。
- ✓ サポート体制について個人でも考えさせてもらえる機会をいただけたことで、選手側も様々な機関に働きかけていかないと現状を変えることはできないのだと感じた。

など

質問は以上です。ご協力いただきまして有難うございました。
ご回答されたアンケートは、封筒（切手は不要）に入れ、お手元に届いてから 1 週間以内にご投函ください。

女性アスリートに携わる指導者への支援に関する調査

（スタッフ用）

本調査は、文部科学省の委託事業『女性アスリートの育成・支援プロジェクト「女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究」』の一環として、国立スポーツ科学センター(以下、「JISS」)が実施しているものです。本調査は女性アスリートに携わる指導者が求めているサポート内容を把握するために実施しています。女性アスリート強化選手に携わる JOC 強化スタッフ、及び JOC 加盟競技団体の強化スタッフの方を対象としています。本調査で得られた情報はすべて数量化されますので、個人が特定されるようなことは一切ありません。この調査用紙は、集計後に JISS の責任において破棄をいたします。自由意思に基づき、お答えできる範囲で結構ですので、ご協力をお願い致します。

«連絡先» 国立スポーツ科学センター(JISS)
メディカルセンター 女性アスリート調査研究
(担当：土肥、村上)
〒115-0056 東京都北区西が丘３－１５－１
TEL：03－5963－0211(内線 2258)
FAX：03－5963－0212
E-mail：josei.chosa@jpnsport.go.jp

※回答の所要時間は、約２０分程度です。
※ご回答されたアンケートは、封筒(切手は不要)に入れ、1 週間以内にご投函ください。
※複数種目で所属されている場合は、最もスタッフ活動年数の長い競技種目についてお答えください。
※以下の各項目の空欄を埋め、また該当する箇所にチェック印☑を入れてください。

1.競技名:

□1.陸上競技
□2.水泳(競泳)
□3.水泳(飛込)
□4.水泳(水球)
□5.水泳(ｼﾝｸﾛﾅｲｽﾞﾄﾞｽｲﾐﾝｸﾞ)
□6.サッカー
□7.テニス
□8.ボート
□9.ホッケー
□10.ボクシング
□11.バレーボール(ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ)
□12.バレーボール(ﾋﾞｰﾁﾊﾞﾚｰ)
□13.体操(体操)
□14.体操(新体操)
□15.体操(トランポリン)
□16.バスケットボール
□17.レスリング
□18.セーリング
□19.ウエイトリフティング
□20.ハンドボール
□21.自転車
□22.卓球
□23.馬術
□24.フェンシング
□25.柔道
□26.バドミントン
□27.ライフル射撃
□28.近代五種
□29.ラグビーフットボール
□30.カヌー
□31.アーチェリー
□32.クレー射撃
□33.トライアスロン
□34.ゴルフ
□35.テコンドー
□36.スキー(アルペン)
□37.スキー(ｸﾛｽｶﾝﾄﾘｰ)
□38.スキー(ジャンプ)
□39.スキー(ﾙﾁﾞｯｸ複合)
□40.スキー(ﾌﾘｰｽﾀｲﾙ)
□41.スキー(ｽﾉｰﾎﾞｰﾄﾞ)
□42.スケート(ｽﾋﾟｰﾄﾞｽｹｰﾄ)
□43.スケート(ﾌｨｷﾞｭｱｽｹｰﾄ)
□44.スケート(ｼｮｰﾄﾄﾗｯｸ)
□45.アイスホッケー
□46.ボブスレー
□47.スケルトン
□48.リュージュ
□49.カーリング
□50.バイアスロン
□51.ソフトテニス
□52.軟式野球
□53.相撲
□54.ソフトボール
□55.弓道
□56.剣道
□57.山岳
□58.空手
□59.銃剣道
□60.なぎなた
□61.ボウリング
□62.野球
□63.武術太極拳
□64.スカッシュ
□65.ビリヤード
□66.ボディビル
□67.ダンススポーツ
□68.その他

1-35:夏季競技 68.0%(215)
36-50:冬季競技 17.4% (55)
51-67:非オリンピック競技 14.6%(46)
N=316

2.年齢： **N=312**
□１． -19 歳 **0.3%(1)** □２.20-29 歳 **6.1%(19)** □３.30-39 歳 **26.6%(83)**
□４.40-49 歳 **34.9%(109)** □５.50-59 歳 **20.5%(64)** □６.60 歳- **11.5%(36)**

3.強化スタッフとしての経験年数：**N=276 平均 8.07±7.00 年**
□1. -1 年未満 **2.2%(6)** □2. 1-2 年未満 **9.4%(26)** □3. 2-3 年未満 **12.3%(34)**
□4. 3-4 年未満 **9.8%(27)** □5. 4-5 年未満 **10.9%(30)** □5. 5-10 年未満 **21.7%(60)**
□6. 10-15 年未満 **15.9%(44)** □7.15-20 年未満 **10.1%(28)** □8. 20-25 年未満 **3.3%(9)**
□9. 25-30 年未満 **2.9%(8)** □10.30 年以上 **1.4%(4)**

4.性別：**N=314** □1.男性 **53.5%(168)** □2.女性 **46.5%(146)**

5.役割：**N=311** **※複数回答あり**
□１.コーチングスタッフ **(232)** □３.情報・戦略スタッフ **(16)**
□２.マネジメントスタッフ **(45)** □４.医・科学スタッフ **(43)**

6.配偶者の有無： **N=314**
□1.既婚 **69.1%(217)** ※既婚の場合、同居・別居等に☑を入れてください **N=209**
⇒ □同居 **92.8%(194)** □別居 **6.2%(13)**□その他 **1.0%(2)**
□2.未婚 **30.9%(97)**

7.子どもの有無： **N=313**
□1.あり **56.2%(176)** □2.なし **43.8.%(137)**
□子どもの人数 **N=172 平均 2.03±0.79 人**
１人:**26.2%(45)**, ２人:**47.7%(82)**, ３人:**23.8%(41)**, ４人以上:**2.3%(4)**
□子どもの年齢 ※子どもが複数名の場合、全員の年齢をご記入ください

	１人目	２人目	３人目	４人目	５人目	全員合計
	(N=166)	(N=119)	(N=41)	(N=3)	(N=1)	(N=166)
-5 歳未満	13.9% (23)	10.9% (13)	24.4% (10)	33.3% (1)	-% (-)	28.3% (47)
5-10 歳未満	15.7% (26)	23.5% (28)	19.5% (8)	-% (-)	-% (-)	37.3% (62)
10-15 歳未満	12.7% (21)	16.8% (20)	19.5% (8)	-% (-)	-% (-)	29.5% (49)
15-20 歳未満	19.3% (32)	14.3 (17)	7.3% (3)	-% (-)	-% (-)	31.3% (52)
20-25 歳未満	13.9% (23)	10.1 (12)	4.9% (2)	-% (-)	-% (-)	22.3% (37)
25-30 歳未満	6.6% (11)	5.0 (6)	12.2% (5)	-% (-)	100% (1)	13.9% (23)
30 歳以上	18.1% (30)	19.3 (23)	12.2% (5)	66.7% (2)	-% (-)	36.1% (60)
平均年齢	17.46±11.42	16.50±11.08	14.54±11.88	23.00±15.75	29.00±0.00	33.47±29.16

8.両親との同居近居： **N=310**
□1.同居 **17.4%(54)**
□2.別居(電車や自家用車等での移動を含め、**30 分未満**) **23.5%(73)**
□3.別居(電車や自家用車等での移動を含め、**30 分以上**) **49.7%(154)**
□4.その他( ) **9.4%(29)**

9.強化スタッフ以外の職業： **N=309**
□１.学生・大学院生 **0.3%(1)** □５.パート・アルバイト **2.3%(7)**
□２.正社員 **55.0%(170)** □６.自営業 **12.6%(39)**
□３.契約社員・嘱託 **14.2%(44)** □７.なし **13.6%(42)**
□４.派遣社員 **-%(-)** □８.その他 ( ) **1.9%(6)**

以下の質問では、あなたの指導環境における支援についてお尋ねしています。本調査では、競技団体、所属企業、JISS、家族等含め、**全ての関係者からの支援**と考えてご回答ください。

女性アスリートに携わる指導者へのサポート内容についてお伺いします

あなたが指導を継続する上で、**現在困難であること**や**直面している課題**についてお聞きします。**あなた自身の現状を踏まえてお答えください。**以下の**質問１～質問７**について、該当する箇所に○をつけてください。また、「その他」に該当する場合は番号を○で囲み、(　　)内に具体的な内容をご記入ください。

質問１．「身体面のケア」について
(１)あなたは体調不良や病気など「身体的な問題」を抱えることがある **N=312 平均 1.92±1.07**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
2.2% (7)	7.4% (23)	17.6% (55)	25.3% (79)	47.4 (148)

(２)**あなたが「身体的な問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
1.病気や体調不良などに対する治療 N=293 平均 2.72±1.65	23.9% (70)	14.3% (42)	10.9% (32)	11.6% (34)	39.2% (115)
2.怪我や病気への予防と対策 N=293 平均 2.65±1.53	18.4% (54)	14.3% (42)	16.4% (48)	15.0% (44)	35.8% (105)
3.食事・栄養指導 N=290 平均 2.39±1.48	14.1% (41)	12.8% (37)	13.8% (40)	16.9% (49)	42.4% (123)
4.睡眠障害への対処 N=289 平均 2.07±1.48	12.8% (37)	8.7% (25)	9.7% (28)	10.0% (29)	58.8% (170)
5.その他(　　) N=32 平均 2.06±1.66	18.8% (6)	9.4% (3)	-% (-)	3.1% (1)	68.8% (22)

質問２．「心理面のケア」について
(１)あなたは悩みやストレスなど「心理的な問題」を抱えることがありますか。**N=311 平均 2.54±1.18**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
7.4% (23)	14.5% (45)	23.2% (72)	34.7% (108)	20.3% (63)

(２)**あなたが「心理的な問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
1.気分転換やリラックスできる場の提供 N=297 平均 2.25±1.34	8.4% (25)	11.8% (35)	19.5% (58)	17.2% (51)	43.1% (128)
2.指導に集中できる環境整備 N=298 平均 2.62±1.44	12.8% (38)	18.8% (56)	20.5% (61)	13.8% (41)	34.2% (102)
3.心理面の強化、モチベーションの維持 N=295 平均 2.36±1.38	11.2% (33)	11.2% (33)	19.3% (57)	19.0% (56)	39.3% (116)
4.心理面での問題に対応する相談窓口 N=296 平均 2.04±1.35	10.1% (30)	5.1% (15)	16.6% (49)	14.9% (44)	53.4% (158)
5.支援ネットワークづくり (コーチ同士、競技団体、ドクターなどとの連携) N=295 平均 2.59±1.35	10.5% (31)	18.0% (53)	22.0% (65)	19.3% (57)	30.2% (89)
6.その他(　　) N=22 平均 1.82±1.27	9.1% (2)	-% (-)	18.2% (4)	9.1% (2)	63.6% (14)

質問３．「人的サポート資源の充実」について
(１)あなたを取り巻く「指導者やスタッフなど人的サポート資源が充実していない」と思うことがありますか
N=309 平均 3.00±1.40

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
20.1% (62)	19.4% (60)	19.4% (60)	23.0% (71)	18.1% (56)

(２)**あなたが「人的サポート資源が充実していないという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
1.他の指導者、スタッフなどの資質向上 N=299 平均 2.64±1.22	9.0% (27)	15.1% (45)	27.8% (83)	27.1% (81)	21.1% (63)
2.高度なコーチング実践力のある指導者の育成 N=299 平均 2.53±1.24	7.7% (23)	14.7% (44)	27.1% (81)	23.4% (70)	27.1% (81)
3.女性指導者、女性スタッフなどの増加 N=298 平均 2.35±1.27	8.1% (24)	12.1% (36)	19.8% (59)	26.5% (79)	33.6% (100)
4.競技団体における女性役員の配置 N=296 平均 2.46±1.28	9.8% (29)	11.8% (35)	20.9% (62)	29.1% (86)	28.4% (84)
5.国際大会で活躍する女性審判員の育成 N=293 平均 2.40±1.33	8.5% (25)	15.0% (44)	19.5% (57)	21.5% (63)	35.5% (104)
6.ハラスメントへの対応 N=292 平均 2.67±1.41	14.0% (41)	15.8% (46)	24.0% (70)	15.8% (46)	30.5% (89)
7.その他(　　) N=13 平均 1.62±1.15	7.7% (1)	-% (-)	7.7% (1)	15.4% (2)	69.2% (9)

質問４．「的確な情報提供」について
(１)あなたは指導に関する「情報提供が不十分」であると思うことがありますか。**N=302 平均 2.71±1.18**

常にある	しばしばある	時々ある	たまにある	ほとんどない
9.9% (30)	12.9% (39)	32.1% (97)	28.5% (86)	16.6% (50)

(２)**あなたが「情報提供が不十分であるという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
1.医学的サポートに関する情報提供 N=300 平均 2.92±1.22	12.7% (38)	19.0% (57)	29.7% (89)	25.3% (76)	13.3% (40)
2.トレーニング方法に関する情報提供 N=300 平均 3.01±1.19	11.7% (35)	23.3% (70)	31.3% (94)	21.3% (64)	12.3% (37)
3.映像分析や IT 戦略に関する情報提供 N=297 平均 2.75±1.27	11.4% (34)	16.5% (49)	28.6% (85)	22.9% (68)	20.5% (61)
4.栄養サポートに関する情報提供 N=300 平均 2.87±1.27	12.0% (36)	20.0% (60)	29.7% (89)	19.3% (58)	19.0% (57)
5.心理サポートに関する情報提供 N=299 平均 2.39±1.23	7.0% (21)	11.7% (35)	26.1% (78)	24.1% (72)	31.1% (93)
6.アンチドーピングに関する情報提供 N=299 平均 3.35±1.20	22.1% (66)	22.4% (67)	30.8% (92)	18.1% (54)	6.7% (20)
7.国内外の女性スポーツに関する情報提供 N=300 平均 2.18±1.16	4.7% (14)	7.7% (23)	26.7% (80)	23.3% (70)	37.7% (113)
8.メディアトレーニングに対する情報提供 N=299 平均 2.30±1.19	5.7% (17)	10.0% (30)	25.8% (77)	25.8% (77)	32.8% (98)
9.リスクマネジメントに対する情報提供(事故対応、保険制度など) N=299 平均 2.29±1.22	6.4% (19)	10.4% (31)	24.1% (72)	24.7% (74)	34.4% (103)
10.その他(　　) N=10 平均 1.70±0.78	-% (-)	-% (-)	20.0% (2)	30.0% (3)	50.5% (5)

質問５.「指導環境の整備」について

（１）あなたは「指導環境が整備されていない」と思うことがありますか。　**N=303　平均 2.87±1.32**

常にある		しばしばある		時々ある		たまにある		ほとんどない
14.2% (43)	―	**19.8%** (60)	―	**25.1%** (76)	―	**21.1%** (64)	―	**19.8%** (60)

（２）**あなたが「指導環境が整備されていないという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１.活動の拠点となる練習・トレーニング施設の充実 **N=301　平均 3.09±1.45**	**24.6%** (74)	**16.3%** (49)	**21.9%** (66)	**17.9%** (54)	**19.3%** (58)
２.国際大会や海外合宿への参加機会の増加 **N=300　平均 3.09±1.32**	**18.0%** (54)	**24.0%** (72)	**21.3%** (64)	**22.3%** (67)	**14.3%** (43)
３.より高度なコーチングスキル習得の機会 **N=300　平均 2.57±1.24**	**9.0%** (27)	**13.3%** (40)	**27.7%** (83)	**25.3%** (76)	**24.7%** (74)
４.スポーツ団体における資格制度の充実 **N=299　平均 2.86±1.24**	**11.7%** (35)	**18.7%** (56)	**29.4%** (88)	**23.7%** (71)	**16.4%** (49)
５.グローバルで活躍するためのコーチングプログラムへの参加機会(言語スキル獲得、社会性など) **N=299　平均 2.10±1.17**	**6.0%** (18)	**5.7%** (17)	**20.4%** (61)	**28.1%** (84)	**39.8%** (119)
６.その他(　　) **N=12　平均 1.58±1.19**	**8.3%** (1)	**-%** (-)	**8.3%** (1)	**8.3%** (1)	**75.0%** (9)

質問６.「金銭的な支援」について

（１）あなたは「金銭面で問題」があると思うことがありますか。　**N=305　平均 3.11±1.42**

常にある		しばしばある		時々ある		たまにある		ほとんどない
24.3% (74)	―	**17.0%** (52)	―	**21.3%** (65)	―	**20.0%** (61)	―	**17.4%** (53)

（２）**あなたが「金銭面での問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１.合宿・遠征費への資金援助 **N=307　平均 3.59±1.36**	**36.5%** (112)	**20.5%** (63)	**18.2%** (56)	**15.3%** (47)	**9.4%** (29)
２.スポーツ用品や用具などの提供 **N=306　平均 2.82±1.50**	**21.2%** (65)	**13.7%** (42)	**18.0%** (55)	**19.6%** (60)	**27.5%** (84)
３.就職支援、雇用の促進、 **N=303　平均 1.85±1.21**	**6.3%** (19)	**5.6%** (17)	**12.2%** (37)	**18.5%** (56)	**57.4%** (174)
４.企業とのスポンサー契約 **N=303　平均 1.89±1.28**	**8.6%** (26)	**4.6%** (14)	**11.2%** (34)	**18.8%** (57)	**56.8%** (172)
５.コンサルタントを行う支援団体の紹介(法務、税務などのマネジメントなど) **N=300　平均 1.48±0.95**	**3.0%** (9)	**1.7%** (5)	**9.3%** (28)	**12.3%** (37)	**73.7%** (221)
６.その他(　　) **N=12　平均 1.83±1.34**	**8.3%** (1)	**8.3%** (1)	**8.3%** (1)	**8.3%** (1)	**66.7%** (8)

質問７.「キャリアプランの支援」について

（１）あなたは「キャリアプランに不安」があると思うことがありますか　**N=297　平均 2.75±1.37**

常にある		しばしばある		時々ある		たまにある		ほとんどない
15.5% (46)	―	**14.1%** (42)	―	**23.9%** (71)	―	**22.6%** (67)	―	**23.9%** (71)

（２）**あなたが「キャリアプランに不安があるという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
1.キャリア情報が提供されるセミナーや講習会などへの参加機会 **N=287　平均 2.03±1.09**	**2.8%** (8)	**8.0%** (23)	**20.2%** (58)	**27.5%** (79)	**41.5%** (119)
2.進学や海外留学などへの支援制度 **N=285　平均 1.70±1.04**	**2.5%** (7)	**5.3%** (15)	**13.0%** (37)	**18.2%** (52)	**61.1%** (174)
3.次のキャリアへの対応窓口(現在の強化スタッフから退いた後のキャリアを相談するなど) **N=285　平均 1.52±0.97**	**2.5%** (7)	**3.5%** (10)	**9.1%** (26)	**13.0%** (37)	**71.9%** (205)
4.仕事や学業との両立 **N=279　平均 1.95±1.19**	**5.4%** (15)	**6.8%** (19)	**16.1%** (45)	**20.4%** (57)	**51.3%** (143)
5.職域拡大を視野に入れた就職に関する情報 **N=282　平均 1.57±0.99**	**3.5%** (10)	**1.8%** (5)	**9.9%** (28)	**17.4%** (49)	**67.4%** (190)
6.失業保険制度の充実 **N=282　平均 1.70±1.27**	**8.9%** (25)	**2.8%** (8)	**8.5%** (24)	**8.5%** (24)	**71.3%** (201)
7.その他(　　) **N=11　平均 1.73±1.35**	**9.1%** (1)	**9.1%** (1)	**-%** (-)	**9.1%** (1)	**72.7%** (8)

質問８.「競技スポーツに対する社会的評価の向上」について

（１）あなたは「競技スポーツに対する社会的評価が低い」と思うことがありますか。**N=304　平均 3.16±1.23**

常にある		しばしばある		時々ある		たまにある		ほとんどない
17.1% (52)	―	**24.0%** (73)	―	**26.3%** (80)	―	**22.7%** (69)	―	**9.9%** (30)

（２）**あなたが「競技スポーツに対する社会的評価が低い」という問題を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
１.専門種目への認知度の向上 **N=296　平均 2.58±1.21**	**8.1%** (24)	**15.9%** (47)	**23.3%** (69)	**31.8%** (94)	**20.9%** (62)
２.指導に対する専心性(専念していること)への評価向上 **N=295　平均 2.36±1.18**	**5.4%** (16)	**12.9%** (38)	**22.0%** (65)	**31.2%** (92)	**28.5%** (84)
３.情報メディアへの効果的なキャンペーン **N=294　平均 2.12±1.14**	**4.1%** (12)	**9.5%** (28)	**18.4%** (54)	**30.6%** (90)	**37.4%** (110)
４.サポーターや競技ファンの増加 **N=295　平均 2.16±1.14**	**4.4%** (13)	**9.5%** (28)	**19.0%** (56)	**31.5%** (93)	**35.6%** (105)
５.社会貢献活動の促進 **N=295　平均 2.24±1.18**	**5.4%** (16)	**10.5%** (31)	**20.3%** (60)	**30.2%** (89)	**33.6%** (99)
６.功績や実績を讃える表彰制度の充実 **N=297　平均 2.47±.18**	**7.1%** (21)	**12.1%** (36)	**25.6%** (76)	**31.3%** (93)	**23.9%** (71)
７.その他(　　) **N=9　平均 1.67±1.25**	**11.1%** (1)	**-%** (-)	**-%** (-)	**22.2%** (2)	**66.7%** (6)

質問９.「家庭生活・育児との両立」について

（１）あなたは「家庭生活・育児との両立に悩んでいる」と思うことがありますか。**N=297　平均 2.35±1.37**

常にある		しばしばある		時々ある		たまにある		ほとんどない
11.1% (33)	―	**10.8%** (32)	―	**18.2%** (54)	―	**21.5%** (64)	―	**38.4%** (114)

（２）**あなたが「家庭生活・育児との両立に悩んでいるという問題」を抱えた場合**、下記の項目について、今の指導環境ではどの程度支援がなされると思いますか。

	常に支援される	しばしば支援される	時々支援される	たまに支援される	ほとんど支援されない
1.家事の負担軽減(炊事、洗濯、掃除、買い物など) **N=271　平均 2.30±1.57**	**15.9%** (43)	**12.9%** (35)	**9.2%** (25)	**9.6%** (26)	**52.4%** (142)
２.競技団体における産休・育休制度の充実 **N=265　平均 1.82±1.29**	**8.7%** (23)	**4.5%** (12)	**10.6%** (28)	**12.5%** (33)	**63.8%** (169)
３.子どもの病気看護休暇制度の充実 **N=268　平均 1.83±1.30**	**7.8%** (21)	**6.7%** (18)	**9.7%** (26)	**12.3%** (33)	**63.4%** (170)
４.育児相談に関する窓口の紹介 **N=262　平均 1.60±1.05**	**3.4%** (9)	**4.6%** (12)	**9.2%** (24)	**14.5%** (38)	**68.3%** (179)
５.体験者同士の情報を共有する場の提供 **N=265　平均 1.71±1.13**	**4.9%** (13)	**3.8%** (10)	**12.5%** (33)	**15.1%** (40)	**63.8%** (169)
６.大会、遠征でのベビーシッター制度の充実 **N=266　平均 1.35±0.84**	**1.9%** (5)	**2.3%** (6)	**5.6%** (15)	**9.0%** (24)	**81.2%** (216)
７.大会での託児所、チャイルドルームの設置 **N=266　平均 1.32±0.77**	**1.5%** (4)	**1.1%** (3)	**6.0%** (16)	**10.5%** (28)	**80.8%** (215)
８.大会でのおむつ交換、授乳室の設置 **N=263　平均 1.38±0.79**	**1.5%** (4)	**0.8%** (2)	**8.4%** (22)	**12.9%** (34)	**76.4%** (201)
９.育児サポートに関する経済的な援助 **N=266　平均 1.37±0.84**	**1.9%** (5)	**1.5%** (4)	**7.5%** (20)	**9.8%** (26)	**79.3%** (211)
１０.親などへの介護休暇制度の充実 **N=267　平均 1.51±1.05**	**4.5%** (12)	**3.4%** (9)	**6.0%** (16)	**10.9%** (29)	**75.3%** (201)
１１.その他(　　) **N=15　平均 1.33±1.01**	**6.7%** (1)	**-%** (-)	**-%** (-)	**6.7%** (1)	**86.7%** (13)

質問１０.その他

これまでにご回答いただいた**質問１～質問９の項目以外**に、現在**あなたが抱える課題及び必要とするサポート内容**があれば、下記の空欄にできる限り具体的にご記載ください。

- ✓ 現行、実施されているサポート事項を、更に周知させる為の案内方法が必要と思う。まだまだ、知らない者が多いと思われる。
- ✓ ＮＦに専従の強化関連の事務局員を配置すること（2020 年に向けて事務局員設置の金銭サポートが行える事業があるので、それを活用する方向で調整中）。優秀な人材を確保するには金銭面での十分なサポートが必要。人手不足により現場の強化スタッフ（監督・コーチ等）が書類作成や会議出席を行うことが多くなっている。現場の強化スタッフが、日々の強化活動に専念できる環境を維持するため、強化専任事務局員の配置が必要と感じる。
- ✓ ＮＦ団体の体質に問題があるかと思う。上下関係、派閥等で正しい正しくないが決まっている。しかし、今現在多少の改善も感じる。２０２０年に向け、ベストな状態でベストを尽くさなくてはいけない。第三者の方も交えて判別が出せる団体になれればと日々強く思っている。

- ✓ 一番感じることは競技がアマチュアスポーツであり、社会人になるまでは学校教育の中にある。コーチとしての評価は低く、ボランティアコーチである。それに加え連盟のコーチスタッフ全員がほぼボランティアだと感じている。自分の選手が強化に入っていればまた少しは違うが、この組織の作り方にとても疑問を感じる。今後のことを考えると、女性スタッフの後継者がとても少ない。男性社会の組織の中で女性スタッフとしてやっていくのはとても大変である。次の女性スタッフが苦労しないための道を作りたいとは思うが、後継者がいないと意味もなくなる。課題①女性スタッフ（コーチ）の育成。
- ✓ 競技団体のメンバー内に当該競技のコアな経験者や審判の上キスパートが非常に少なく、強化に必要な競技特性の理解と当該競技に特化した強化策の知識を持つ人物が極少数のため、何かを進めるのに対立が起こることも多い。先ずは理解を得る段階から精神的負担が大きく、困難を伴うため遠回りの強化に甘んじている。海外の競技団体に比べ国内は派遣事業の制約が多々、自由度が低いので、時節と選手のコンディションに合わせたフレキシブルな判断や運用ができず、小さなチャンスを逃すことが多い。
- ✓ 競技団体と現場スタッフのコミュニケーションが必要と感じる（団体→現場の一方ではなく団体←→現場の双方が話を出来る環境・状況が欲しい）・競技団体の情報の開示（現場への）のスムーズさを求む。
- ✓ 昨年からの世界ランキング性に世界連盟がルールを変えた為、世界のオープン大会の参加が増え、マンパワー不足の事と考えています。今後はガバナンスにそった方向で進めていきたい。
- ✓ マイナー競技ゆえの社会的認知度の低さから、様々な支援を受ける機会が少ない。教育公務員で妻は専業主婦であり、経済的な負担も大きい。合宿等に積極的に参加したいが、遠方なため、旅費等の関係でＮＦに迷惑がかかると思い自粛してしまう。その予算があれば選手に還元した方がいいとも思う。まずは社会的認知度の向上が必要ではないだろうか。
- ✓ 遠征や強化活動の際に自分自身の仕事を休まなくてはならない場合のサポートや金銭的補償、または遠征や強化活動を行うために日常から固定の仕事を出来ないでいることに対しての金銭的援助。
- ✓ 子供がいないので出産育児で悩んだことはない。しかし、現在は親の介護で、海外遠征等に帯同の場合、家が不安である。

など

質問１１.下記の項目の中で、スタッフ活動を継続していく上で、**あなたが必要と考えるサポート内容**はどれですか。あなたが必要と思うサポートから順に**上位３つ**を選び、**質問１～10 までの数字**を記入して下さい。

N =301

※1 位 3 点、2 位 2 点、3 位 1 点として点数化し、全ての項目の総得点を算出した

質問１. 身体面でのケア	**122 点**
質問２. 心理面でのケア	**96 点**
質問３. 人的サポート資源の充実	**226 点**
質問４. 的確な情報の提供	**145 点**
質問５. スタッフ環境の整備	**270 点**
質問６. 金銭的な支援	**476 点**
質問７. キャリアプランの支援	**108 点**
質問８. 競技スポーツに対する社会的評価の向上	**204 点**
質問９. 家庭生活・育児との両立	**149 点**
質問１０.その他（　　）	**10 点**

１位：　質問（　　）	２位：　質問（　　）	３位：　質問（　　）

質問１２.サポート体制の利用度、満足度について

（1）女性アスリートに携わる指導者に対して、スタッフ活動を支援するために様々なサポート活動が取組まれています。あなたは、本調査において**これまで回答したようなサポート体制**を、どの程度**利用**されていますか。 **N=291　平均 1.36±0.80**

常に利用している		しばしば利用している		時々利用している		たまに利用している		全く利用していない
1.4%	—	**2.1%**	—	**5.8%**	—	**12.4%**	—	**78.4%**
(4)		**(6)**		**(17)**		**(36)**		**(228)**

（2）上記で**利用していると回答した方**は、具体的にどのようなサポートを利用されているのか、箇条書きで簡潔にご記入ください。

●身体●
・職場の医療補助／福利厚生制度
・ドクターによるメディカルサポート
・食事、栄養サポート
・JISS での身体ケア等・トレーニング論（ケア等）
・トレーナーとの連携による選手のコンディションサポート
・チームドクターによる、女性ジュニアアスリートの身体支援

●心理●
・心理学的サポート方法の勉強
・気分転換の場の提供
・チームドクターによる女性ジュニアアスリートへのメンタルの成長支援

●人的●
・女性スタッフ・役員の増加

●情報●
・各種講習会等での情報提供
（女性アスリート指導者講習、ナショナルコーチングアカデミー、JOC 女性スポーツフォーラム等）
・JOC 指導者海外派遣制度
・映像分析による情報提供
・ガバナンスの指導
・トレーナーによるトレーニングメニュー享受
・国際試合に派遣された審判員からの情報共有
・女性スポーツメディカルスタッフネットワーク（入会、セミナー参加）

●環境●
・活動拠点・トレーニング施設を利用
・強化合宿の参加
・海外の指導方法やレベル等を知る機会を多く持てる
・強化遠征へのマネージャー帯同
・女性選手の海外遠征時、女性スタッフの同行

●金銭●
・合宿・遠征費の援助
・用具、用品の援助
・NF からの資金援助
（大会参加経費、コーチ謝金、帯同サポート時）
・女性アスリートに対する助成金受給
・種目に対する支援事業

●キャリア●
・キャリアプランの支援
・所属団体に雇用されている

●育児●
・学務、家族を優先し、集合時間や合宿日程を調整させてもらっている

など

（3）あなたは**これまで回答したような指導者へのサポート体制**に対して、**総じて**どの程度**満足**をされていますか。 **N=234　3.12±1.22**

非常に満足している		満足している		少し満足している		少し不満である		不満である		非常に不満である
1.3%	—	**14.5%**	—	**21.4%**	—	**28.6%**	—	**25.6%**	—	**8.5%**
(3)		**(34)**		**(50)**		**(67)**		**(60)**		**(20)**

（4）満足、ないしは不満とされた**理由**を下欄にご記入ください。

(満足)
- ✓ 合宿や遠征では、ほとんどサポート体制が整備されている
- ✓ 情報提供の機会が多いので、選択が出来る
- ✓ 他のスタッフとのコミュニケーションも良く、満足している
- ✓ 特に問題なく指導ができているので満足

など

(不満)
- ✓ ビデオ録り、コンピュータ解析など、充実した施設をもっと使用させて欲しい
- ✓ 正規の仕事の合間に参加するため、常にスタッフが不足している
- ✓ サポートがない
- ✓ サポートがあることを知らない
- ✓ 利用する時間・機会がない

など

年収、指導に関わる費用や自己負担額など、金銭面に関してお伺いします

質問１３.あなたの**年収**(額面)はおおよそどれくらいですか。**スポンサーなどによる補てん(足りないお金を補助すること)を除き**、差支えがなければお答えください。スポンサー費、助成金、競技団体による強化費、所属企業からの活動支援費なども補てんに含みます。

N=269

□1. 収入なし	**3.3%(9)**	□8. 600 万～700 万円未満	**10.8%(29)**
□2. ～100 万円未満	**5.6%(15)**	□9. 700 万～800 万円未満	**7.4%(20)**
□3. 100 万～200 万円未満	**6.3%(17)**	□10. 800 万～900 万円未満	**5.2%(14)**
□4. 200 万～300 万円未満	**9.3%(25)**	□11. 900 万～1000 万円未満	**4.5%(12)**
□5. 300 万～400 万円未満	**8.9%(24)**	□12. 1000 万円以上	**8.2%(22)**
□6. 400 万～500 万円未満	**11.2%(30)**	□13. わからない／答えたくない	**9.7%(26)**
□7. 500 万～600 万円未満	**9.7%(26)**		

質問１４.年間を通じた指導に関わる費用、スポンサーなどによる補てん、１年分の自己負担額の内訳をご記入ください。スポンサー及び所属団体等による補てんについては**「あり／なし」のどちらかに**○をつけてください。金額はおおよその値段を１万円単位としてください。

＜例＞

	指導に関わる費用（万円）	スポンサーなどによる補てん	補てん額（万円）	自己負担額（万円）
1.用品・用具費	５０	(あり) ／ なし	３０	２０
2.合宿・遠征費	１５０	(あり) ／ なし	１２５	２５
3.その他(　　)		あり ／ なし		
4.その他(　　)		あり ／ なし		
5.その他(　　)		あり ／ なし		
合　計	２００		１５５	４５

		指導に関わる費用（万円）	スポンサーなどによる補てん	補てん額（万円）	自己負担（万円）
1.用品・用具費	**N**	**119**	**196**	**91**	**122**
	10 万円未満	**31.1%(37)**		**50.5%(46)**	**57.4%(70)**
	10- 20 万円未満	**25.2%(30)**		**17.6%(16)**	**21.3%(26)**
	20- 30 万円未満	**10.1%(12)**		**11.0%(10)**	**8.2%(10)**
	30- 40 万円未満	**16.0%(19)**		**8.8%(8)**	**6.6%(8)**
	40- 50 万円未満	**0.8%(1)**	**あり:43.4%(85)**	**1.1%(1)**	**0.8%(1)**
	50-100 万円未満	**11.8%(14)**	**なし:56.6%(111)**	**7.7%(7)**	**4.9%(6)**
	100-200 万円未満	**3.4%(4)**		**2.2%(2)**	**-%(-)**
	200 万円以上	**1.7%(2)**		**1.1%(1)**	**0.8%(1)**
	平均（万円）	**25.42±38.03**		**17.48±29.29**	**12.16±28.03**

		指導に関わる費用（万円）	スポンサーなどによる補てん	補てん額（万円）	自己負担（万円）
2.合宿・遠征費	N	**135**	**210**	**120**	**138**
	10 万円未満	**12.6%(17)**		**20.8%(25)**	**55.8%(77)**
	10- 20 万円未満	**8.9%(12)**		**10.8%(13)**	**11.6%(16)**
	20- 30 万円未満	**9.6%(13)**		**7.5%(9)**	**12.3%(17)**
	30- 40 万円未満	**5.9%(8)**	**あり:63.8%(134)**	**7.5%(9)**	**5.8%(8)**
	40- 50 万円未満	**7.4%(10)**	**なし:36.2%(76)**	**5.0%(6)**	**0.7%(1)**
	50-100 万円未満	**15.6%(21)**		**18.3%(22)**	**10.1%(14)**
	100-200 万円未満	**27.4%(37)**		**21.7%(26)**	**3.6%(5)**
	200 万円以上	**12.6%(17)**		**8.3%(10)**	**-%(-)**
	平均（万円）	**89.22±118.02**		**79.60±121.96**	**16.04±25.56**
3.その他(　　)			あり ／ なし		
4.その他(　　)			あり ／ なし		
5.その他(　　)			あり ／ なし		
合　計	N	**153**		**129**	**159**
	10 万円未満	**12.4%(19)**		**22.5%(29)**	**40.3%(64)**
	10- 20 万円未満	**7.2%(11)**		**7.0%(9)**	**13.2%(21)**
	20- 30 万円未満	**6.5%(10)**		**7.0%(9)**	**11.3%(18)**
	30- 40 万円未満	**7.8%(12)**		**5.4%(7)**	**9.4%(15)**
	40- 50 万円未満	**4.6%(7)**		**7.8%(10)**	**2.5%(4)**
	50-100 万円未満	**17.6%(27)**		**15.5%(20)**	**12.6%(20)**
	100-200 万円未満	**30.1%(46)**		**23.3%(30)**	**9.4%(15)**
	200 万円以上	**13.1%(21)**		**11.6%(15)**	**1.3%(2)**
	平均（万円）	**116.78±171.88**		**92.47±136.56**	**38.13±108.80**

※合計はこちらで計算致します

質問１５.現在、あなたがスタッフ活動を続ける上で、**資金調達など金銭面での課題、対応策、必要なサポート内容**などがあれば、下記の空欄にできるだけ具体的にご記入ください。

- ✓ 指導者が少なく、高度な指導力を持った人材も少ない。長い目で指導者を育てていけるようなサポート体制があると助かり、未来に繋がる。
- ✓ 世界レベルの選手を育成しようとすれば海外へ出て勉強する必要がある。世界トップの選手はなかなか日本に来てくれないので、出ていくしかない。費用面の支援が大切になる。
- ✓ ①ガバナンスの運用指導、②コンプライアンス遵守の協会運営強化、③仲裁機構などの協会への監視体制の強化、④細部まで確認作業のできるスタッフ全員のスキルアップ。
- ✓ 現状は人件費に使える予算がない。事業を企画運営していくスタッフの増員が必要だが、これは東京オリンピック以降も継続して雇用できる体制としなくてはならない。独自の資金集めが必要。

- ✓ 社会貢献の機会を増加させたいので、地域とのマッチングの場が欲しい。
- ✓ スポンサーの獲得を自らの努力で獲得に向けた活動をしなければならないと考えているが、仕事とチーム運営への支障も生じるため、なかなか行動に移すことができていない。
- ✓ ナショナルチームにおいていえば、コーチは専任（ここでの専任は雇用関係）が必要である。謝金対応では、責任の所在が明確ではなく、何かあった時の対応が大幅に遅れてしまう。
- ✓ 特に急な病気や怪我などによる離脱で保障期間がないので、個人が積み立てられる雇用保険やスポーツ全体で入れる保障や保険があると良い。
- ✓ 社会人チーム等は、選手は取るが指導者は取らない企業が多い。ナショナルチームとして年間通した体制が整っていれば良いが、中途半端なのでローカルチームで時々ナショナル選手を預かる時に困る（金銭が出ない、ボランティアになる）。また、遠征に選手を出してもナショナルチームから試合や指導内容、成果と課題の提示、フィードバックが一切ないので、ローカルコーチは粗末に扱われていると感じてしまうので、国を挙げて改善してほしい。
- ✓ 社会的なサポート、安定した金銭的サポートがなく、仕事のかけもち、ボランティアに近い状況で責任を取らなくても良いサポートチーム体制では、世界で戦える選手育成は出来ない。現状周りには優秀な人材はたくさんいるが、皆それぞれが個々の持つ能力を出しきれる状況ではない。
- ✓ 海外のコーチも指摘するが、女性と男性は形態や心理面の違いが大きい。手間をかける必要性は女性の場合に多い。海外のコーチから女性は少数の選手の指導体制を組めないと成果をあげにくいと示唆された。スポーツによる影響が、本人の身体的な特徴もあるが、不妊という状況を生む場合もある。大学生で初潮を迎えていないという相談があり、小中高は男性指導者だった。またアスリートに起きやすい、もしくは、起きることが予想される性同一性障害の問題について、隠れた問題になっているのではないだろうか。

など

女性アスリート、及び指導者におけるサポート内容に関する御意見などがございましたら、下欄にご記入ください。今後の調査研究の参考とさせていただきます。

- ✓ 女性指導者の育成の観点では、独身者の場合は結婚してほしいが、結婚しにくい環境になり易いと思い、推薦しにくい。又、既婚者の場合でも、子育ての支援はもちろんの事、家族の理解、協力も必要であり、家庭側への説明や協力依頼等のフォローも重要と思われる。やはり、何らかの保障が必要と思う。
- ✓ 今後、女子の競技人口は増加すると考えられる為、スタッフや役員、審判員の育成は必要になってくる。
- ✓ 女性を増やすことは良い事であるが、同時に女性特有のデメリットもある。男女ともにストレスなく理解しあえるセミナーの開催をしてはどうか。
- ✓ 女性アスリートに対して女性の指導者なら誰でも良いという考え方はやめた方が良い。女性スタッフがいた方が良いが、人にもよるという事に気を付けた方が良い。
- ✓ アスリート、指導者にとってキャリアプランは大事なことである。次に進むべき方向性があることは、指導者にとっても安心してその競技に集中できる。
- ✓ 海外へ積極的に派遣し、“自立”させるプログラムをもっと増やして欲しい。
- ✓ 仕事を続けていく上での社会保障や環境がまだ整備されていないのが、現場での実情である。

など

質問は以上です。ご協力いただきまして有難うございました。
ご回答されたアンケートは、封筒(切手は不要)に入れ、お手元に届いてから 1 週間以内にご投函ください。

図目次

１．女性アスリート支援に関する調査（選手用）

（１）女性アスリート属性

図１－１　女性アスリート属性・競技（夏競技、冬競技、非オリンピック競技）
図１－２　女性アスリート属性・年齢
図１－３　女性アスリート属性・競技年数
図１－４　女性アスリート属性・女性アスリート区分
図１－５　女性アスリート属性・最高成績
図１－６　女性アスリート属性・配偶者の有無
図１－７　女性アスリート属性・配偶者との同居別居
図１－８　女性アスリート属性・子どもの有無
図１－９　女性アスリート属性・子どもの人数
図１－１０　女性アスリート属性・子どもの年齢（1 人目）
図１－１１　女性アスリート属性・子どもの年齢（２人目）
図１－１０　女性アスリート属性・子どもの年齢（全員）
図１－１１　女性アスリート属性・両親との同居近居
図１－１２　女性アスリート属性・職業
図１－１３　女性アスリート属性・スポーツ振興基金助成金受給の有無

（２）女性アスリートへのサポート内容

図２－１－１　女性アスリートにおける身体的な問題の有無
図２－１－２　女性アスリートにおける身体面のケアに関する支援度合
図２－２－１　女性アスリートにおける心理的な問題の有無
図２－２－２　女性アスリートにおける心理面のケアに関する支援度合
図２－３－１　女性アスリートにおける人的サポート資源に関する課題の有無
図２－３－２　女性アスリートにおける人的サポート資源の充実に関する支援度合
図２－４－１　女性アスリートにおける情報提供に関する課題の有無
図２－４－２　女性アスリートにおける的確な情報提供に関する支援度合
図２－５－１　女性アスリートにおける競技環境の整備に関する課題の有無
図２－５－２　女性アスリートにおける競技環境の整備に関する支援度合
図２－６－１　女性アスリートにおける金銭面での問題の有無
図２－６－２　女性アスリートにおける金銭的な支援度合
図２－７－１　女性アスリートにおけるキャリアプランへの不安の有無
図２－７－２　女性アスリートにおけるキャリアプランに関する支援度合
図２－８－１　女性アスリートにおける競技スポーツに対する社会的評価が低いと思うかどうか
図２－８－２　女性アスリートにおける競技スポーツに対する社会的評価の向上に関する支援度合
図２－９－１　女性アスリートにおける家庭生活・育児との両立への悩みの有無
図２－９－２　女性アスリートにおける家庭生活・育児との両立に関する支援度合
図２－１０－１　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（1 位）
図２－１０－２　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（2 位）
図２－１０－３　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（3 位）
図２－１０－４　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（1～3 位）
図２－１１－１　女性アスリートにおけるサポート体制の利用度
図２－１１－２　女性アスリートにおけるサポート体制の満足度

（３）女性アスリート・金銭面

図３－１－１　女性アスリート・年収
図３－２－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（用品・用具費）
図３－２－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（用品・用具費）
図３－２－３　女性アスリートにおける補てん額（用品・用具費）
図３－２－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（用品・用具費）
図３－３－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（合宿・遠征費）
図３－３－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（合宿・遠征費）
図３－３－３　女性アスリートにおける補てん額（合宿・遠征費）
図３－３－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（合宿・遠征費）
図３－４－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（医療費）
図３－４－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（医療費）
図３－４－３　女性アスリートにおける補てん額（医療費）
図３－４－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（医療費）
図３－５－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（栄養補助食品費）
図３－５－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（栄養補助食品費）
図３－５－３　女性アスリートにおける補てん額（栄養補助食品費）
図３－５－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（栄養補助食品費）
図３－６－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（競技施設使用料）
図３－６－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（競技施設使用料）
図３－６－３　女性アスリートにおける補てん額（競技施設使用料）
図３－６－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（競技施設使用料）
図３－７－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（コーチなどへの謝金、契約金）
図３－７－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（コーチなどへの謝金、契約金）
図３－７－３　女性アスリートにおける補てん額（コーチなどへの謝金、契約金）
図３－７－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（コーチなどへの謝金、契約金）
図３－８－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用の合計
図３－８－２　女性アスリートにおける補てん額の合計
図３－８－３　女性アスリートにおける１年分の自己負担額の合計

２．女性アスリートに携わる指導者への支援に関する調査（スタッフ用）

（１）指導者属性

図４－１　指導者属性・競技（夏競技、冬競技、非オリンピック競技）
図４－２　指導者属性・年齢
図４－３　指導者属性・経験年数
図４－４　指導者属性・性別
図４－５　指導者属性・役割
図４－６　指導者属性・配偶者の有無
図４－７　指導者属性・配偶者との同居別居
図４－８　指導者属性・子どもの有無
図４－９　指導者属性・子どもの人数
図４－１０　指導者属性・子どもの年齢（全員）
図４－１１　指導者属性・両親との同居近居
図４－１２　指導者属性・職業

（２）指導者へのサポート内容

図５－１－１　指導者における身体的な問題の有無
図５－１－２　指導者における身体面のケアに関する支援度合
図５－２－１　指導者における心理的な問題の有無
図５－２－２　指導者における心理面のケアに関する支援度合
図５－３－１　指導者における人的サポート資源に関する課題の有無
図５－３－２　指導者における人的サポート資源の充実に関する支援度合
図５－４－１　指導者における情報提供に関する課題の有無
図５－４－２　指導者における的確な情報提供に関する支援度合
図５－５－１　指導者における指導環境の整備に関する課題の有無
図５－５－２　指導者における指導環境の整備に関する支援度合
図５－６－１　指導者における金銭面での問題の有無
図５－６－２　指導者における金銭的な支援度合
図５－７－１　指導者におけるキャリアプランへの不安の有無
図５－７－２　指導者におけるキャリアプランに関する支援度合
図５－８－１　指導者における競技スポーツに対する社会的評価が低いと思うかどうか
図５－８－２　指導者における競技スポーツに対する社会的評価の向上に関する支援度合
図５－９－１　指導者における家庭生活・育児との両立への悩みの有無
図５－９－２　指導者における家庭生活・育児との両立に関するサポートの利用可能性
図５－１０－１　指導者が必要と考えるサポート内容（1 位）
図５－１０－２　指導者が必要と考えるサポート内容（2 位）
図５－１０－３　指導者が必要と考えるサポート内容（3 位）
図５－１０－４　指導者が必要と考えるサポート内容（1～3 位）
図５－１１－１　指導者におけるサポート体制の利用度
図５－１１－２　指導者におけるサポート体制の満足度

（３）指導者・金銭面

図６－１－１　指導者・年収
図６－２－１　指導者における年間を通じた競技に関わる費用（用品・用具費）
図６－２－２　指導者におけるスポンサーなどによる補てんの有無（用品・用具費）
図６－２－３　指導者における補てん額（用品・用具費）
図６－２－４　指導者における１年分の自己負担額（用品・用具費）
図６－３－１　指導者における年間を通じた競技に関わる費用（合宿・遠征費）
図６－３－２　指導者におけるスポンサーなどによる補てんの有無（合宿・遠征費）
図６－３－３　指導者における補てん額（合宿・遠征費）
図６－３－４　指導者における１年分の自己負担額（合宿・遠征費）
図６－４－１　指導者における年間を通じた競技に関わる費用の合計
図６－４－２　指導者における補てん額の合計
図６－４－３　指導者における１年分の自己負担額の合計

1．女性アスリート支援に関する調査（選手用）
（１）女性アスリート属性

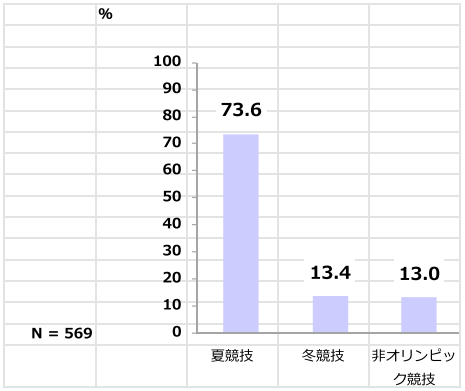


図１－１　女性アスリート属性・競技（夏競技、冬競技、非オリンピック競技）

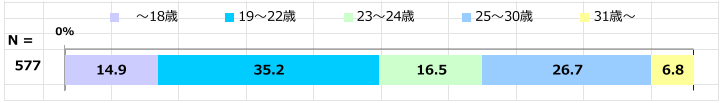


図１－２　女性アスリート属性・年齢

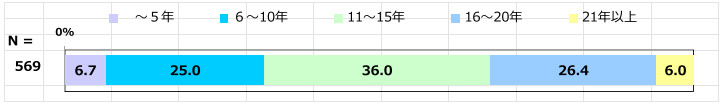


図１－３　女性アスリート属性・競技年数

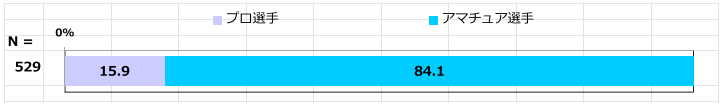


図１－４　女性アスリート属性・女性アスリート区分

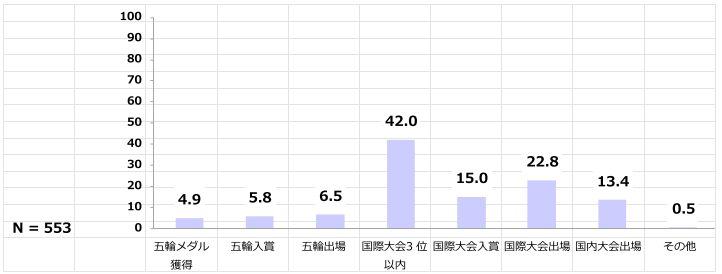


図１－５　女性アスリート属性・最高成績

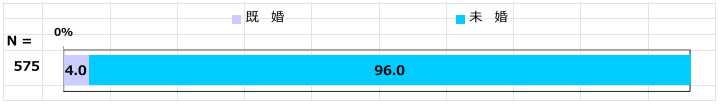


図１－６　女性アスリート属性・配偶者の有無

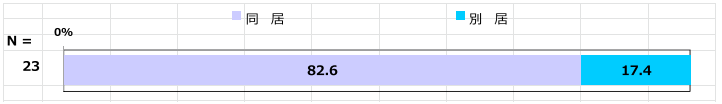


図１－７　女性アスリート属性・配偶者との同居別居

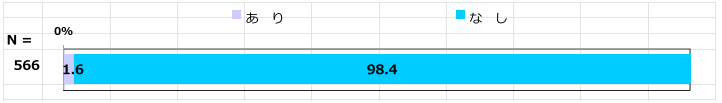


図１－８　女性アスリート属性・子どもの有無

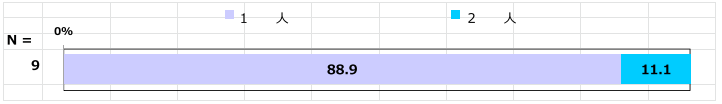


図１－９　女性アスリート属性・子どもの人数

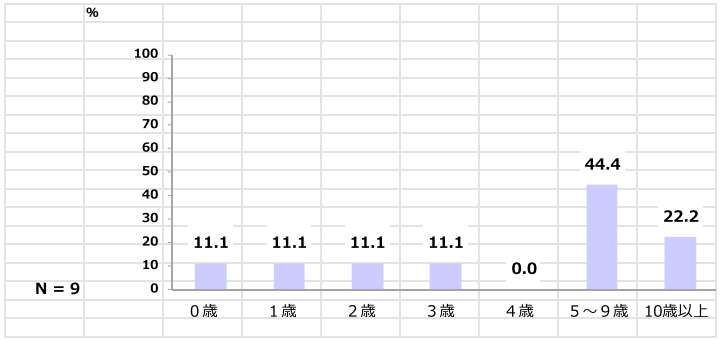


図１－１０　女性アスリート属性・子どもの年齢（全員）

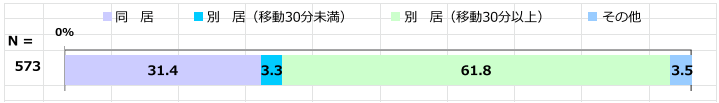


図１－１１　女性アスリート属性・両親との同居近居

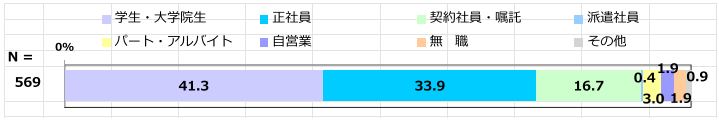


図１－１２　女性アスリート属性・スポーツ振興基金助成金受給の有無

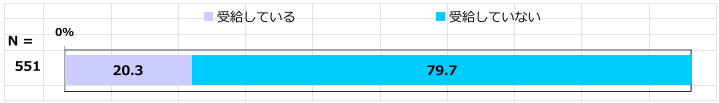


図１－１２　女性アスリート属性・スポーツ振興基金助成金受給の有無

（２）女性アスリートへのサポート内容

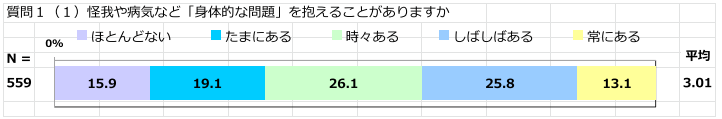


図２－１－１　女性アスリートにおける身体的な問題の有無

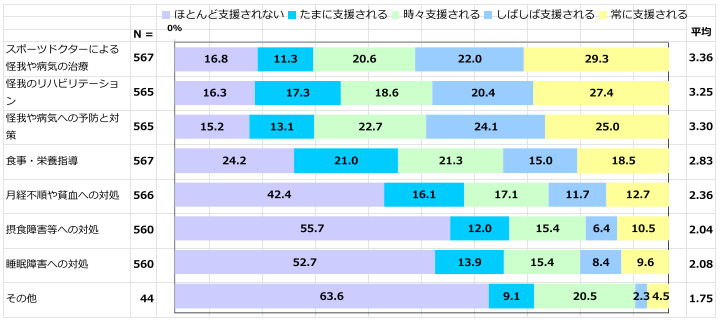


図２－１－２　女性アスリートにおける身体面のケアに関する支援度合

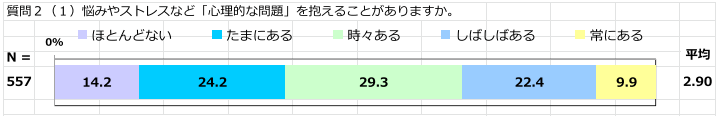


図２－２－１　女性アスリートにおける心理的な問題の有無

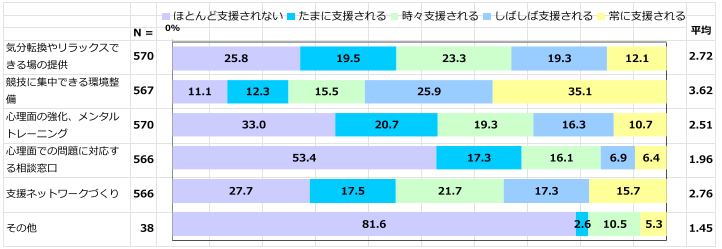


図２－２－２　女性アスリートにおける心理面のケアに関する支援度合

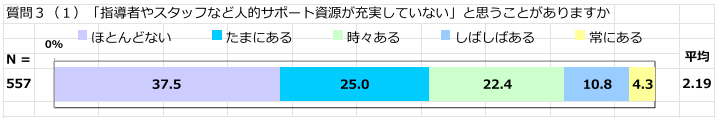


図２－３－１　女性アスリートにおける人的サポート資源に関する課題の有無

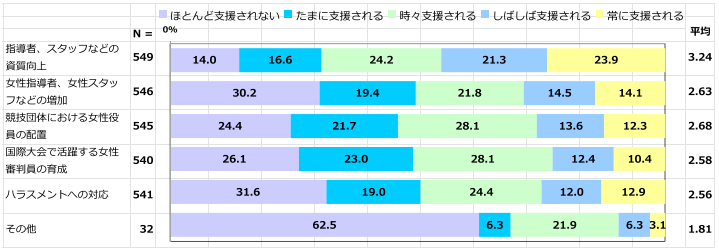


図２－３－２　女性アスリートにおける人的サポート資源の充実に関する支援度合

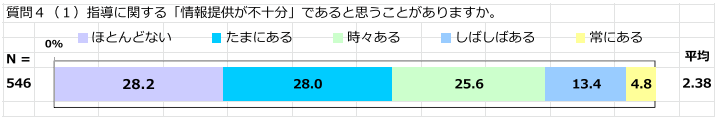


図２－４－１　女性アスリートにおける情報提供に関する課題の有無

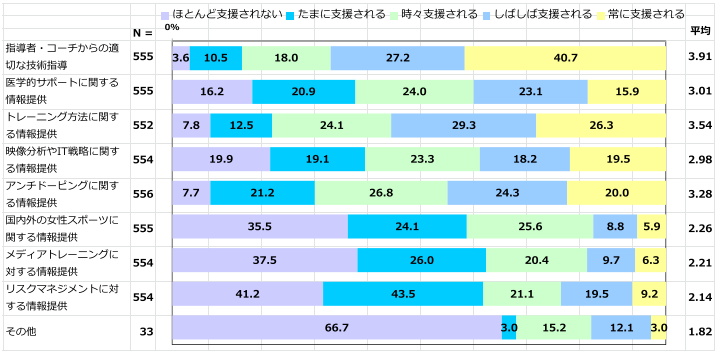


図２－４－２　女性アスリートにおける的確な情報提供に関する支援度合

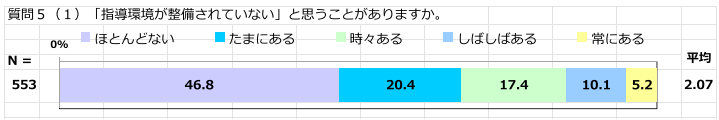


図２－５－１　女性アスリートにおける競技環境の整備に関する課題の有無

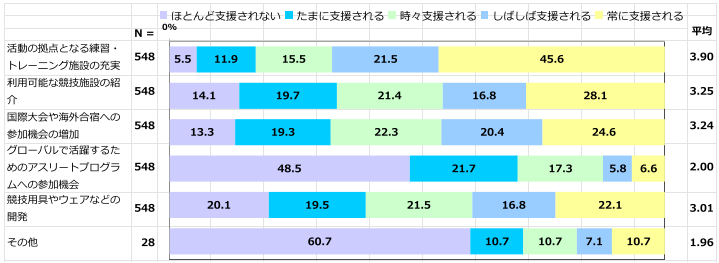


図２－５－２　女性アスリートにおける競技環境の整備に関する支援度合

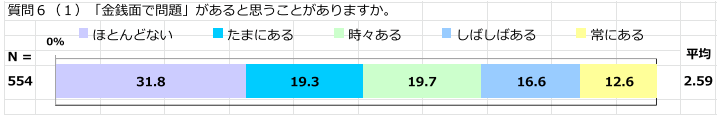


図２－６－１　女性アスリートにおける金銭面での問題の有無

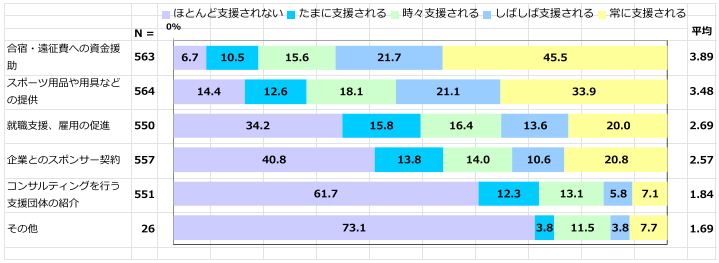


図２－６－２　女性アスリートにおける金銭的な支援度合

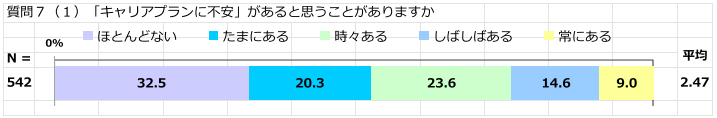


図２－７－１　女性アスリートにおけるキャリアプランへの不安の有無

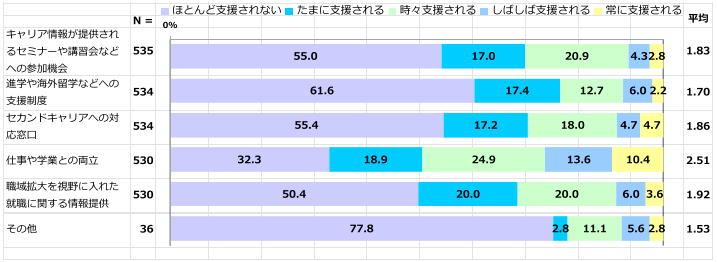


図２－７－２　女性アスリートにおけるキャリアプランに関する支援度合

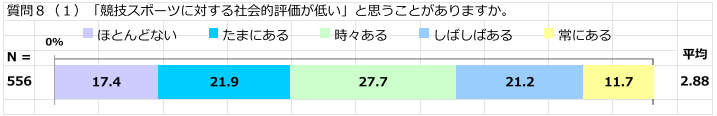


図２－８－１　女性アスリートにおける競技スポーツに対する社会的評価が低いと思うかどうか

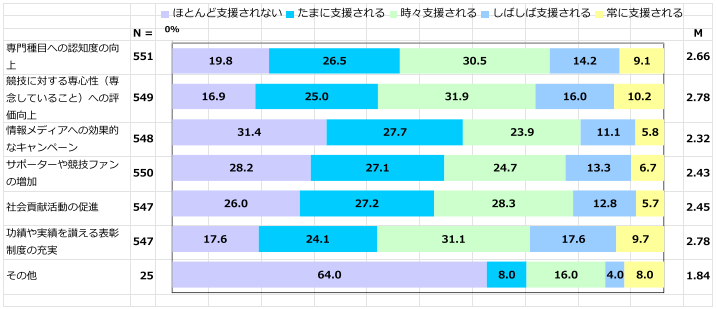


図２－８－２　女性アスリートにおける競技スポーツに対する社会的評価の向上に関する支援度

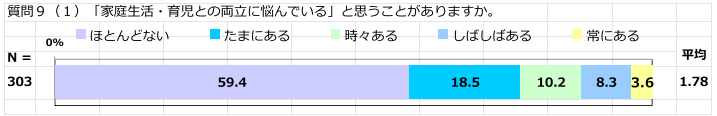


図２－９－１　女性アスリートにおける家庭生活・育児との両立への悩みの有無

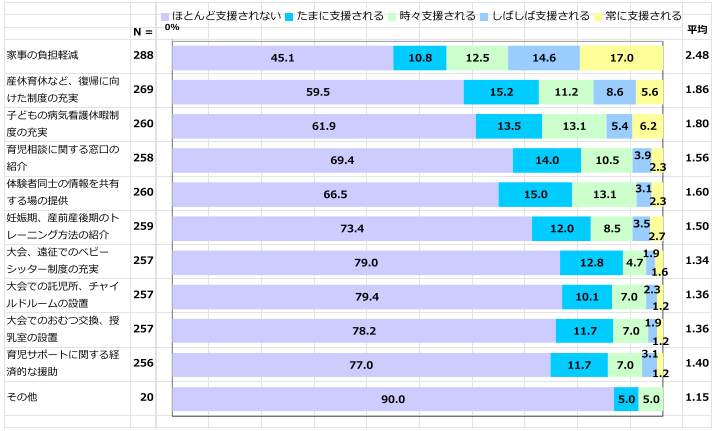


図２－９－２　女性アスリートにおける家庭生活・育児との両立に関するサポートの利用可能性

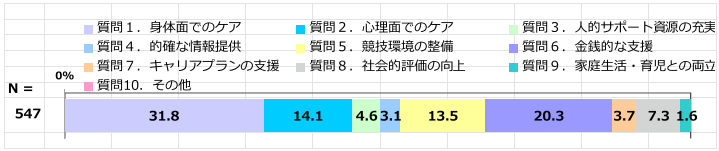


図２－１０－１　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（1 位）

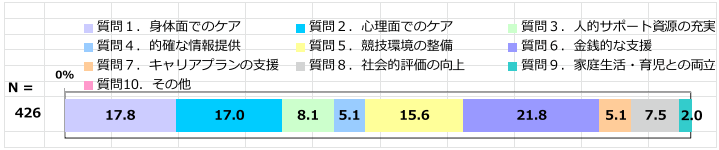


図２－１０－２　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（2 位）

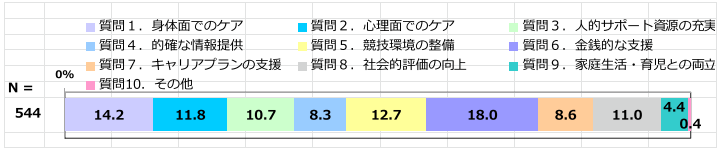


図２－１０－３　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（3 位）

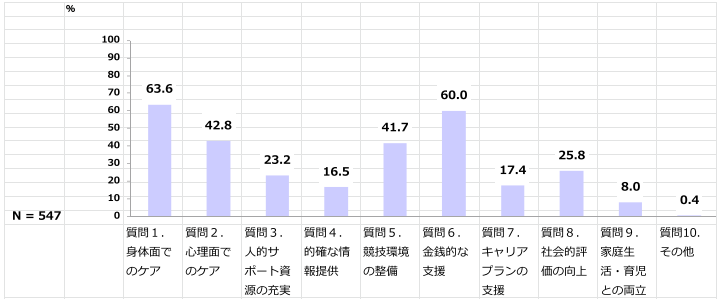


図２－１０－４　女性アスリートが必要と考えるサポート内容（1～3 位）

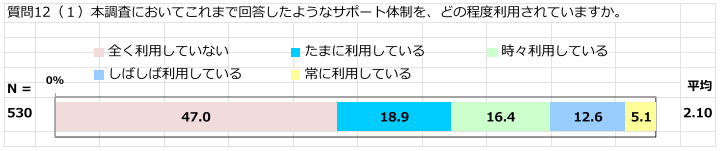


図２－１１－１　女性アスリートにおけるサポート体制の利用度

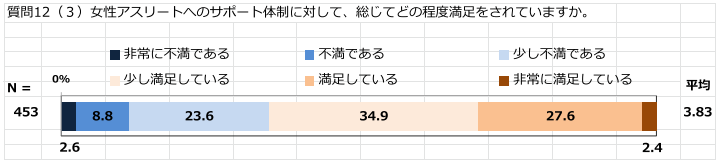


図２－１１－２　女性アスリートにおけるサポート体制の満足度

（３）女性アスリート・金銭面

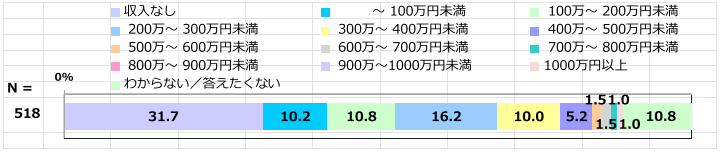


図３－１－１　女性アスリート・年収

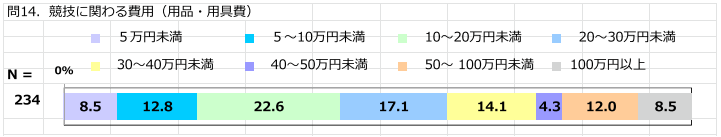


図３－２－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（用品・用具費）



図３－２－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（用品・用具費）

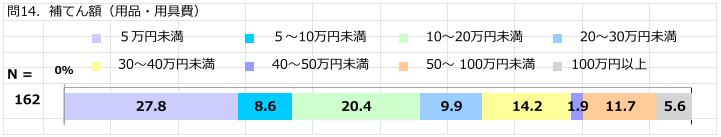


図３－２－３　女性アスリートにおける補てん額（用品・用具費）

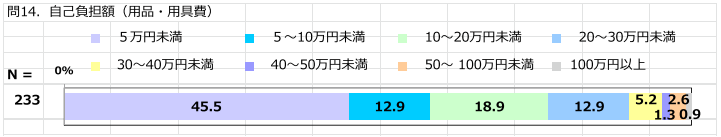


図３－２－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（用品・用具費）

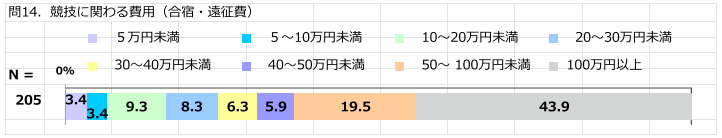


図３－３－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（合宿・遠征費）



図３－３－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（合宿・遠征費）

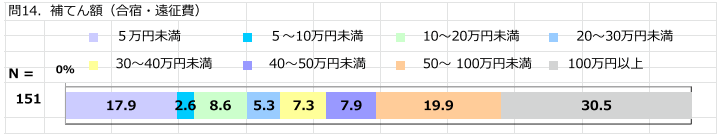


図３－３－３　女性アスリートにおける補てん額（合宿・遠征費）

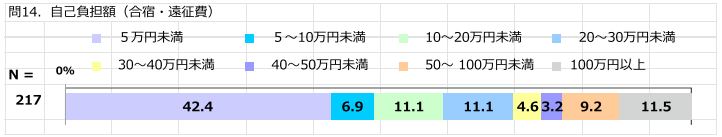


図３－３－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（合宿・遠征費）

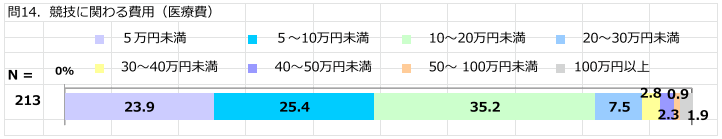


図３－４－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（医療費）

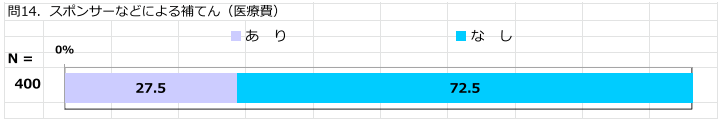


図３－４－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（医療費）

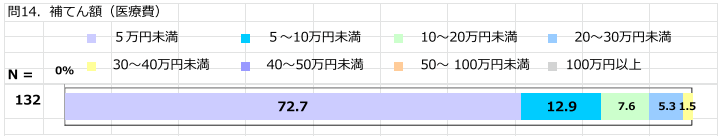


図３－４－３　女性アスリートにおける補てん額（医療費）

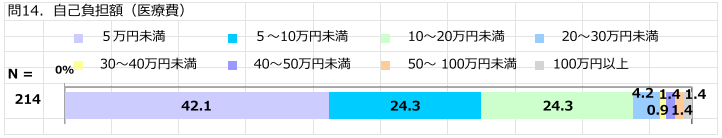


図３－４－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（医療費）

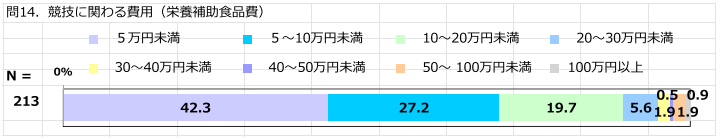


図３－５－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（栄養補助食品費）

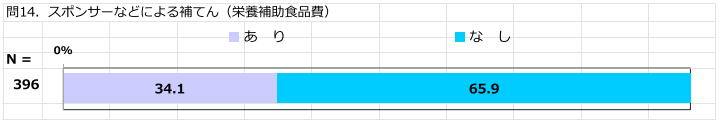


図３－５－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（栄養補助食品費）

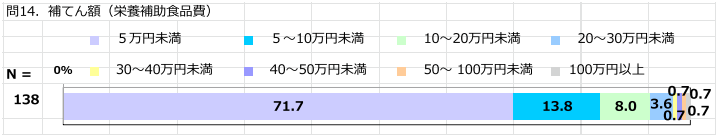


図３－５－３　女性アスリートにおける補てん額（栄養補助食品費）

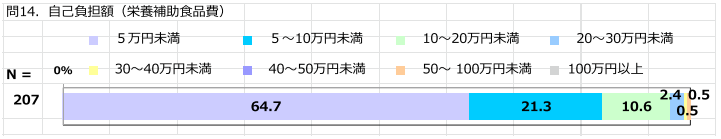


図３－５－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（栄養補助食品費）

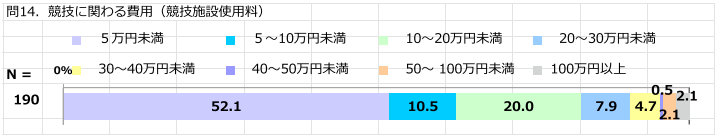


図３－６－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用（競技施設使用料）

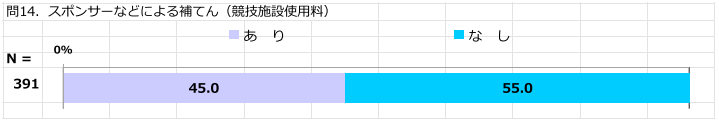


図３－６－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無（競技施設使用料）

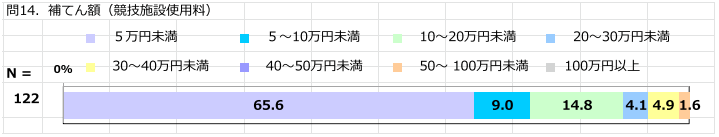


図３－６－３　女性アスリートにおける補てん額（競技施設使用料）

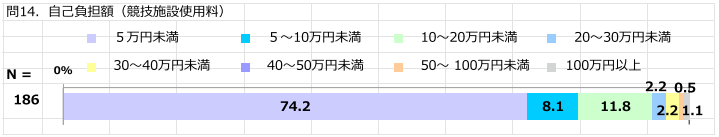


図３－６－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（競技施設使用料）

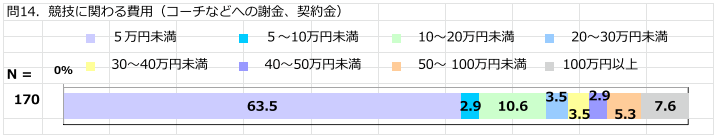


図３－７－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用
（コーチなどへの謝金、契約金）



図３－７－２　女性アスリートにおけるスポンサーなどによる補てんの有無
（コーチなどへの謝金、契約金）

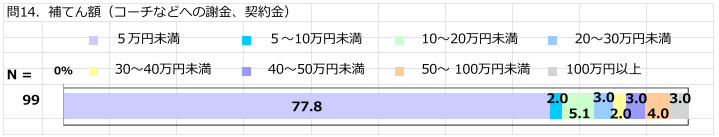


図３－７－３　女性アスリートにおける補てん額（コーチなどへの謝金、契約金）

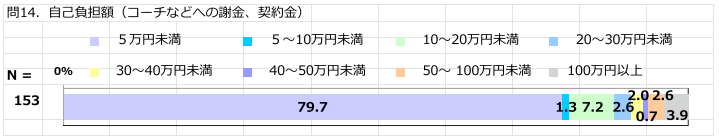


図３－７－４　女性アスリートにおける１年分の自己負担額（コーチなどへの謝金、契約金）

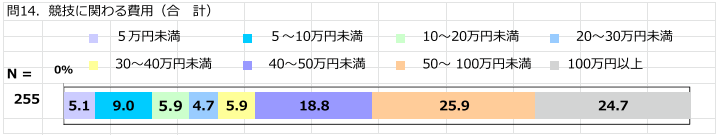


図３－８－１　女性アスリートにおける年間を通じた競技に関わる費用の合計

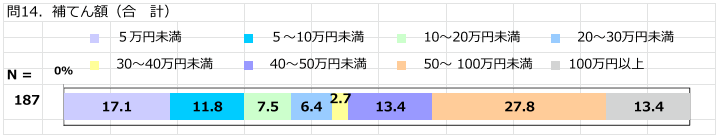


図３－８－２　女性アスリートにおける補てん額の合計

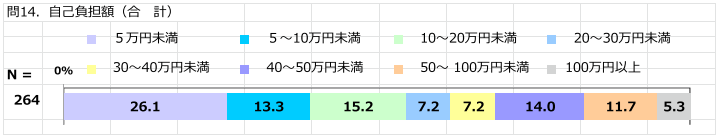


図３－８－３　女性アスリートにおける１年分の自己負担額の合計

２．女性アスリートに携わる指導者への支援に関する調査（スタッフ用）

（１）指導者属性

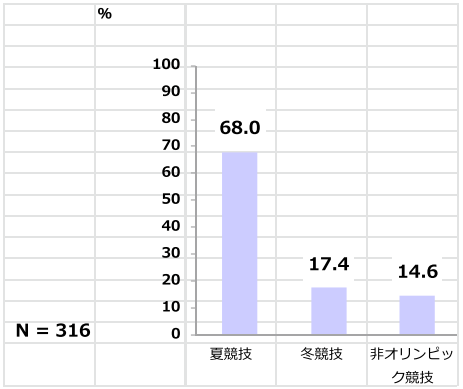


図４－１　指導者属性・競技（夏競技、冬競技、非オリンピック競技）

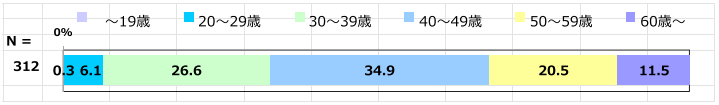


図４－２　指導者属性・年齢

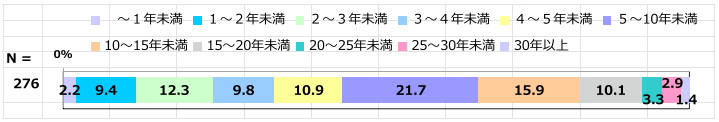


図４－３　指導者属性・経験年数

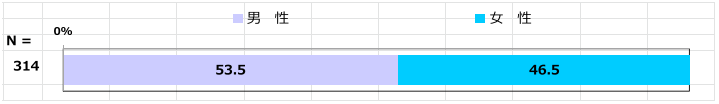


図４－４　指導者属性・性別

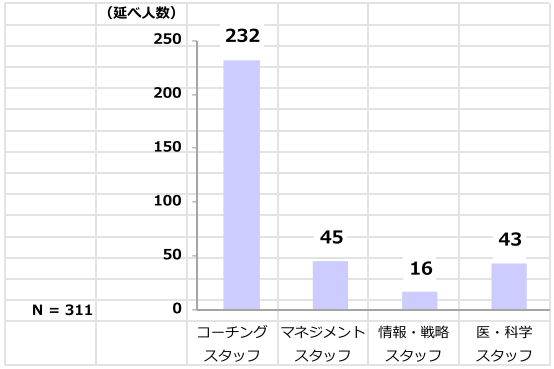


図４－５　指導者属性・役割



図４－６　指導者属性・配偶者の有無

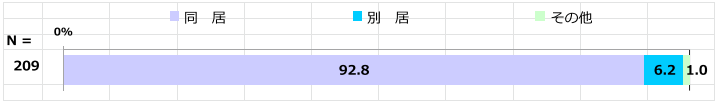


図４－７　指導者属性・配偶者との同居別居

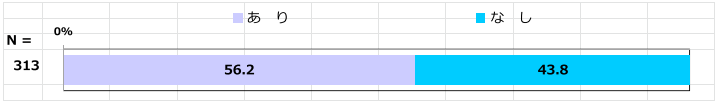


図４－８　指導者属性・子どもの有無

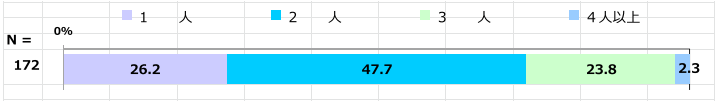


図４－９　指導者属性・子どもの人数

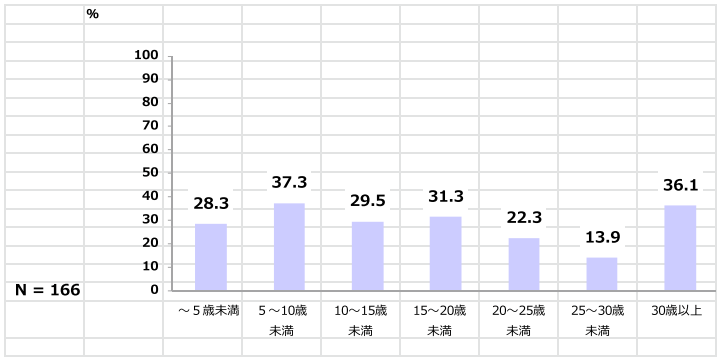


図４－１０　指導者属性・子どもの年齢（全員）

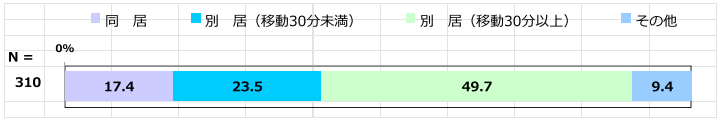


図４－１１　指導者属性・両親との同居近居

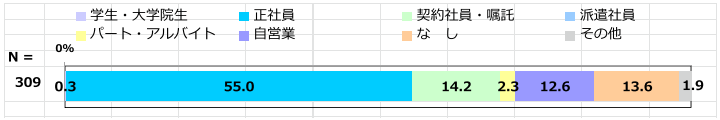


図４－１２　指導者属性・強化指導者以外の職業

（２）指導者へのサポート内容

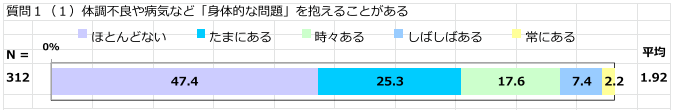


図５－１－１　指導者における身体的な問題の有無

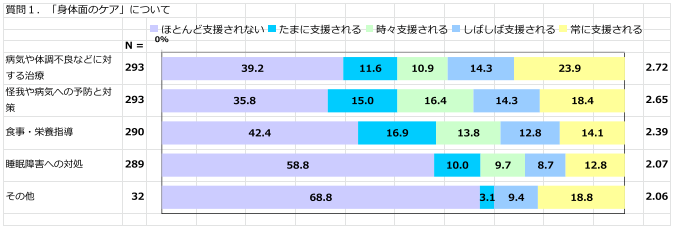


図５－１－２　指導者における身体面のケアに関する支援度合

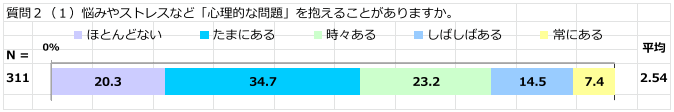


図５－２－１　指導者における心理的な問題の有無

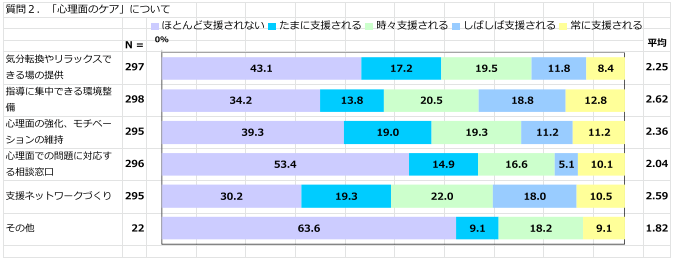


図５－２－２　指導者における心理面のケアに関する支援度合

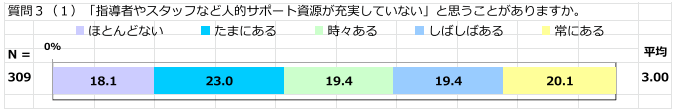


図５－３－１　指導者における人的サポート資源に関する課題の有無

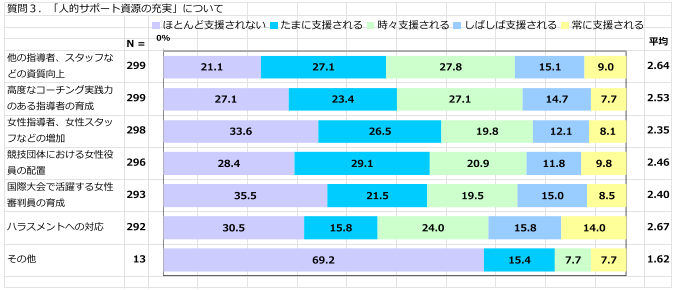


図５－３－２　指導者における人的サポート資源の充実に関する支援度合

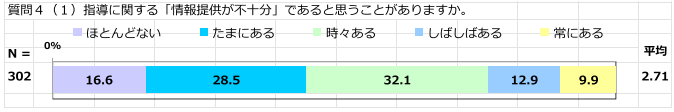


図５－４－１　指導者における情報提供に関する課題の有無

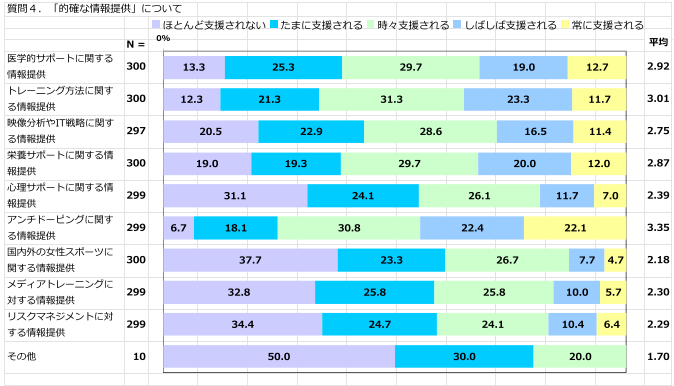


図５－４－２　指導者における的確な情報提供に関する支援度合

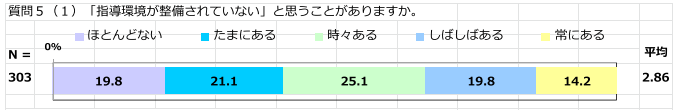


図５－５－１　指導者における指導環境の整備に関する課題の有無

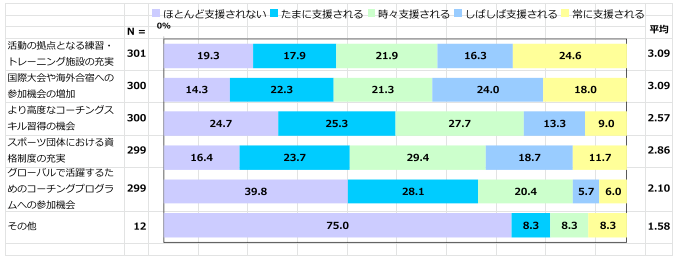


図５－５－２　指導者における指導環境の整備に関する支援度合

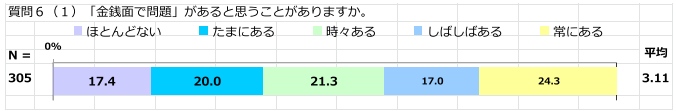


図５－６－１　指導者における金銭面での問題の有無

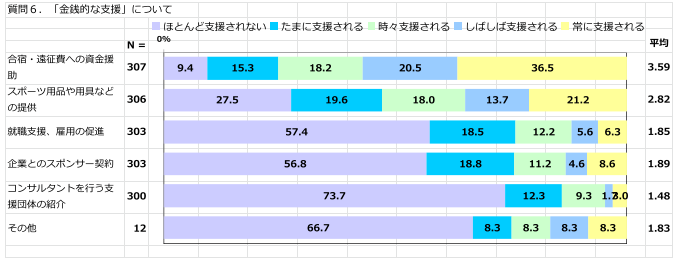


図５－６－２　指導者における金銭的な支援度合

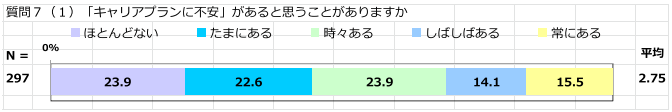


図５－７－１　指導者におけるキャリアプランへの不安の有無

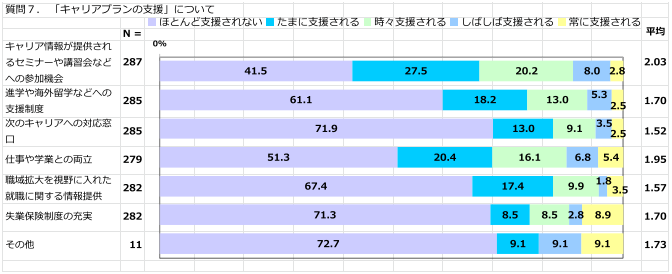


図５－７－２　指導者におけるキャリアプランに関する支援度合

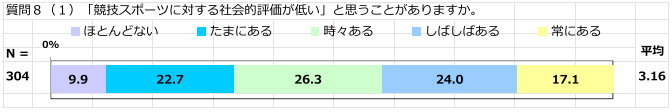


図５－８－１　指導者における競技スポーツに対する社会的評価が低いと思うかどうか

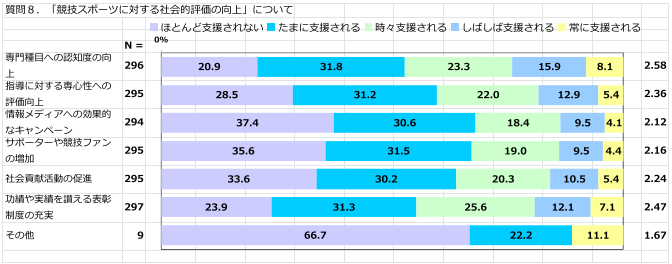


図５－８－２　指導者における
競技スポーツに対する社会的評価の向上に関する支援度合

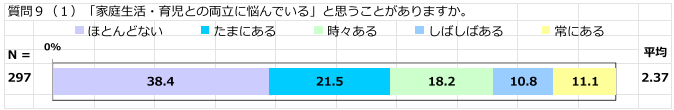


図５－９－１　指導者における家庭生活・育児との両立への悩みの有無

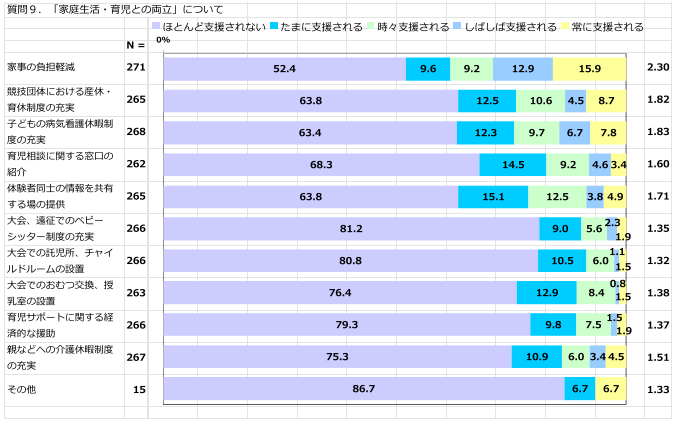


図５－９－２　指導者における家庭生活・育児との両立に関する支援度合

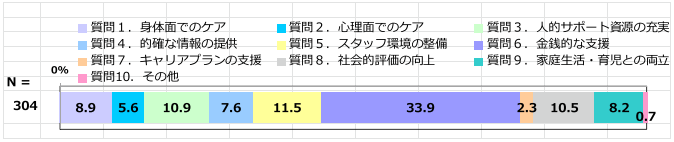


図５－１０－１　指導者が必要と考えるサポート内容（1 位）

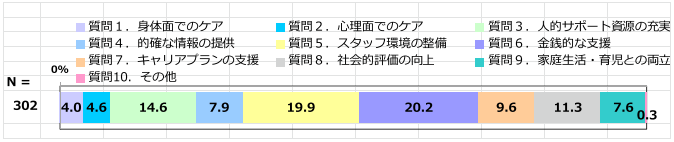


図５－１０－２　指導者が必要と考えるサポート内容（2 位）

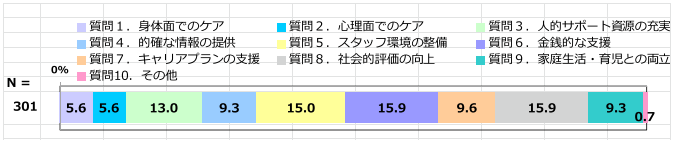


図５－１０－３　指導者が必要と考えるサポート内容（3 位）

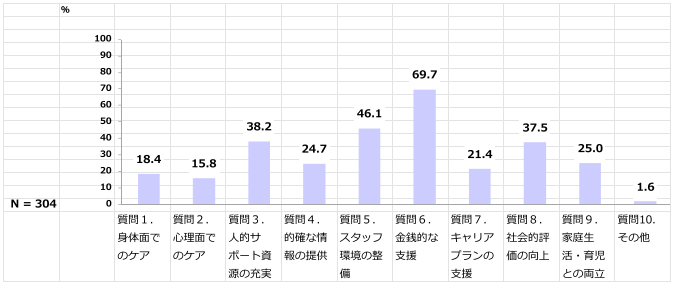


図５－１０－４　指導者が必要と考えるサポート内容（1～3 位）

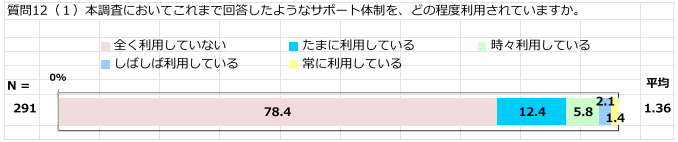


図５－１１－１　指導者におけるサポート体制の利用度

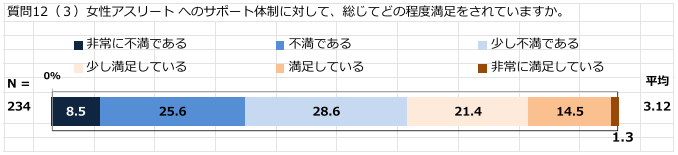


図５－１１－２　指導者におけるサポート体制の満足度

（３）指導者・金銭面

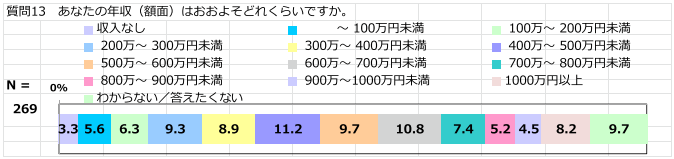


図６－１－１　指導者・年収

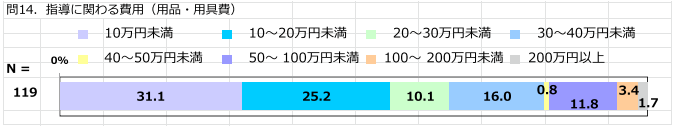


図６－２－１　指導者における年間を通じた競技に関わる費用（用品・用具費）

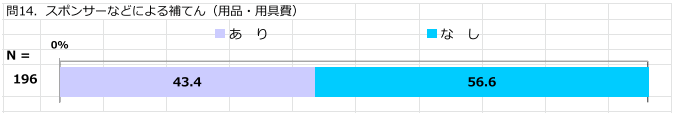


図６－２－２　指導者におけるスポンサーなどによる補てんの有無（用品・用具費）

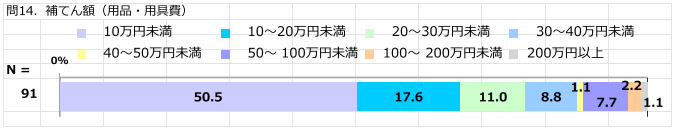


図６－２－３　指導者における補てん額（用品・用具費）

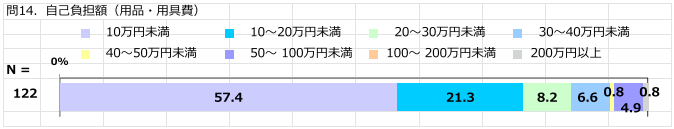


図６－２－４　指導者における１年分の自己負担額（用品・用具費）

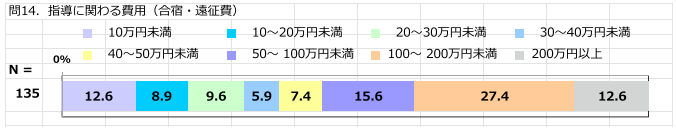


図６－３－１　指導者における年間を通じた競技に関わる費用（合宿・遠征費）



図６－３－２　指導者におけるスポンサーなどによる補てんの有無（合宿・遠征費）

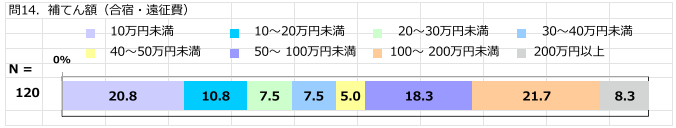


図６－３－３　指導者における補てん額（合宿・遠征費）

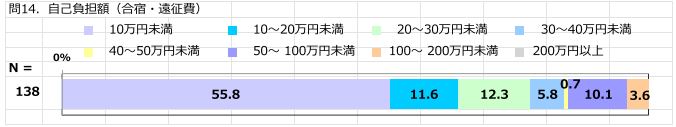


図６－３－４　指導者における１年分の自己負担額（合宿・遠征費）

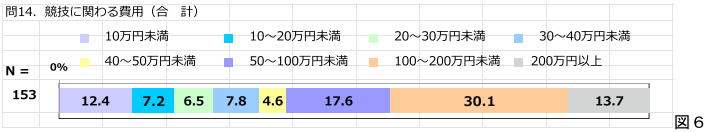


図６

図６－４－１　指導者における年間を通じた競技に関わる費用の合計

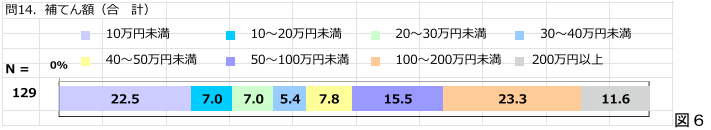


図６

図６－４－２　指導者における補てん額の合計

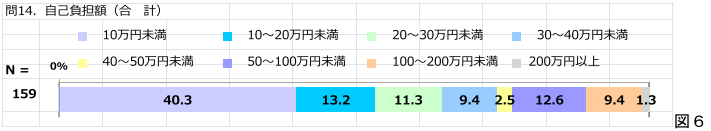


図６

図６－４－３　指導者における１年分の自己負担額の合計

【編集後記】

本調査研究にご協力頂いた女性アスリート、指導者、競技団体、関係諸機関の方々など、多くの皆様に心より感謝を申し上げます。調査研究で得られた知見を積極的にご活用頂き、今後も現場に即した女性アスリートの育成・支援が広く展開されることを願っております。

研究代表者／プロジェクトリーダー	土肥　美智子	（JISS メディカルセンター）
JISS 内メンバー	村上　洋子	（JISS メディカルセンター）
	山岸　佐知子	（JISS メディカルセンター）
	高橋　佐江子	（JISS スポーツ科学研究部）
	鈴木　敦	（JISS スポーツ科学研究部）
外部研究協力者	中込　四郎	（筑波大学）

平成 27 年度　スポーツ庁委託事業
女性アスリートの育成・支援プロジェクト
女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究

「実態に即した女性アスリート支援のための調査研究」
報告書

2016 年 3 月　発行

編集発行　国立スポーツ科学センター
〒115-0056　東京都北区西が丘 3 丁目 15 番 1 号
TEL. 03-5963-0200　FAX. 03-5963-0244
URL http://www/jpnsport.go.jp

印刷・製本　株式会社三六工芸印刷社

.

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、国立スポーツ科学センターが実施した平成 27 年度女性アスリートの育成・支援プロジェクト女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究「実態に即した女性アスリート支援のための調査研究」の成果を取りまとめたものです。従って本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

2016 Printed in Japan.



平成 27 年度 スポーツ庁委託事業
女性アスリートの育成・支援プロジェクト／女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究

「実態に即した女性アスリート支援のための調査研究」 報告書

平成 28 年 3 月

JISS Japan Institute of Sports Sciences 国立スポーツ科学センター

JAPAN SPORT COUNCIL